

2012 年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

2012 年度名古屋経済大学 FD 委員会

第一部 全体の概要

1. 全学的な「学生による授業評価アンケート」実施の経過

名古屋経済大学では、2005 年度から全学的な「学生による授業評価アンケート」を実施している。

(1) 2005 年度から 2007 年度について

①2005 年度の「講義」科目対象

2005 年度から 2 年の期間をかけて、講義、演習、実技、実習科目を対象に授業評価アンケートを実施することにした。

2005 年度は、講義科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で 1 科目を選択し、授業評価アンケートを実施した。総授業数 972 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、71 科目であり、実施率は 7.30%であった。総受講生数 36,800 人の中で、実施受講生数は 5,554 人であり、有効回答数は 975 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、17.55%であった。

②2006 年度の「演習、実技、実習」科目対象

2006 年度は、演習、実技、実習科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で 1 以上の科目について、授業評価アンケートを実施した。総授業数 971 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、374 科目であり、実施率は 38.52%であった。総受講生数 36,781 人の中で、実施受講生数は 7,696 人であり、有効回答数は 4,588 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、59.62%であった。

③2007 年度のすべての「講義、演習、実技、実習」科目対象

2007 年度は、2005 年度と 2006 年度の授業評価アンケートの実施率があまり高くなかったため、開講されているすべての科目を対象として、授業評価アンケートを実施することにした。2007 年度前期開講の半期科目については、7 月の第 1 週に、2007 年度後期開講の半期科目と通年科目については、12 月の第 1 週と第 2 週に実施した。2007 年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数 291 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、283 科目であり、実施率は 97.25%であった。総受講生

数 15, 299 人の中で、実施受講生数は 15, 081 人であり、有効回答数は 9, 362 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、62. 08%であった。

2007 年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数 601 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、594 科目であり、実施率は 98. 84%であった。総受講生数 21, 843 人の中で、実施受講生数は 21, 572 人であり、有効回答数は 12, 406 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、57. 51%であった。

(2) 2008 年度から 2011 年度について

2008 年度以降の概要については、学内ホームページの「授業評価アンケート」を参照のこと。

2. 2012 年度の全学的な「学生による授業評価アンケート」実施方法

学生の負担軽減を考慮し、実施頻度の見直しを検討し、以下の原則を確認した。

- (1) 専任教員については、担当する科目（ゼミナールを除く）の授業評価アンケートを原則 2 年に一度は実施する。具体的な実施スケジュールは各教員が決定する。
- (2) 非常勤講師担当科目については、科目ベースで考え、原則 2 年に 1 回実施する。FD 委員会が実施スケジュールを作成する。
- (3) 学部・学科の方針により必要性が認められる科目については、毎年アンケートを実施する。
- (4) 科目担当者が希望する場合、毎年実施することもできる。
- (5) 自由質問項目を 2 つまで追加可能とする。
- (6) 昨年度同様、質問 9（教科書、配付資料が活用されていますか。）と質問 10（板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか。）については、授業形態によっては、統計処理から除外することができるようにする。
- (7) 2011 年度同様、以下の科目は原則実施しない。
 - i) 単独または合併授業（学部をまたがって開講している科目）の履修者が 10 名未満のもの
 - ii) オムニバス形式（複数の教員が担当）の科目

法学部、経済学部、経営学部は 1 の方式を採用し、自己申告により実施科目を設定した。

人間生活科学部教育保育学科は教員を名簿順に 2 つに分け、24 年度は前半の教員が、25 年度は後半の教員が担当全科目について授業評価アンケートを実施することとした。

人間生活科学部管理栄養学科は、授業評価の継続が必要な科目については毎年実施することとし、学科として実施科目を指定することとした。

3. 2012 年度授業評価アンケートの質問項目

アンケートの質問項目は、次の通りである。

1. あなたは、この授業に出席していますか。
2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。
3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。
4. 教員は、授業時間を守っていますか。
5. 授業内容は、わかりやすいですか。
6. 教員の声は聞きとりやすいですか。
7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。
8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。
9. 教科書、配布資料が活用されていますか。
10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。
11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。
12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から 3 項目以内で選んで下さい。
 - 1 専門用語がむずかしい
 - 2 授業がつまらない
 - 3 授業内容をプリントにしてほしい
 - 4 受講人数が多すぎる
 - 5 休講が多い
 - 6 開講曜日や時限が悪い
 - 7 学生の取り扱いが不平等である
 - 8 教員がいばったり、学生を見くだす
 - 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない
 - 10 授業のための施設、設備に満足できない
13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。

A あなたの所属している学部・学科はどこですか。

1. 経済学部・現代経済学科
2. 経営学部・経営学科
3. 法学部・法学科
4. 人間生活学部・教育保育学科・幼児保育学科
5. 人間生活学部・管理栄養学科

B あなたは、何年度入学ですか。

1. 2012 年度
2. 2011 年度
3. 2010 年度
4. 2009 年度
5. 2008 年度
6. 2007 年度
7. 2006 年度
8. 科目等履修生・研究生

C あなたは、何年生ですか。

1. 1 年生
2. 2 年生
3. 3 年生
4. 4 年生
5. その他

D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。

1. はい
2. いいえ

以上の質問項目の1から11までについては、5段階評価で回答し、ポイントが高いほど肯定的な評価となる。

4. 2012年度「学生による授業評価アンケート」実施率と回答率

(1) 教員所属別の実施率とコメント提出率

<前期>

所属名	対象科目数	回収科目数	回収率 (%)	コメント提出科目数	コメント提出率 (%)
経済学部	20	20	100.00	20	100.00
経営学部	33	33	100.00	30	90.91
法学部	28	28	100.00	28	100.00

人間生活科学部・管理栄養学科	26	23	88.46	23	100.00
人間生活科学部・教育保育学科	25	25	100.00	25	100.00
非常勤	64	63	98.44	58	92.06
【全体】	196	192	97.96	184	95.83

<後期>

所属名	対象科目数	回収科目数	回収率 (%)	コメント提出科目数	コメント提出率 (%)
経済学部	25	25	100.00	25	100.00
経営学部	26	24	92.31	24	100.00
法学部	23	23	100.00	23	100.00
人間生活科学部・管理栄養学科	30	30	100.00	30	100.00
人間生活科学部・教育保育学科	25	25	100.00	25	100.00
非常勤	17	16	94.12	13	81.25
【全体】	146	143	97.95	140	97.90

前期は 192 科目（予定は 196 科目）、後期は 143 科目（予定は 146 科目）のアンケートが実施された。

（２）学生の回答率

<前期>

所属名	対象科目履修者数	回収科目履修者数	回答者数	回答率 (%)
経済学部	1,163	1,163	651	55.98
経営学部	2,257	2,257	1,414	62.65
法学部	1,409	1,409	809	57.42
人間生活科学部・管理栄養学科	950	857	724	84.48
人間生活科学部・教育保育学科	670	670	527	78.66
非常勤	2,541	2,466	1,601	64.92
【全体】	8,990	8,822	5,726	64.91

<後期>

所属名	対象科目 履修者数	回収科目 履修者数	回答者数	回答率 (%)
経済学部	1,680	1,680	863	51.37
経営学部	1,485	1,430	804	56.22
法学部	974	974	521	53.49
人間生活科学部・管理栄養学科	1,154	1,154	906	78.51
人間生活科学部・教育保育学科	777	777	517	66.54
非常勤	488	474	383	80.80
【全体】	6,558	6,489	3,994	61.55

前・後期ともに法学部、経済学部、経営学部の三学部は、人間生活科学部に比べて回答率が低い。これはアンケート実施時期の学期末以前に失格が確定している学生、出席が悪い学生数が多いことを示唆する。2010、2011年度と同様の結果である。履修学生が最後まで出席、学習する仕組みを講じる必要がある。出席管理に加えて、魅力ある授業の提供が肝要となる。

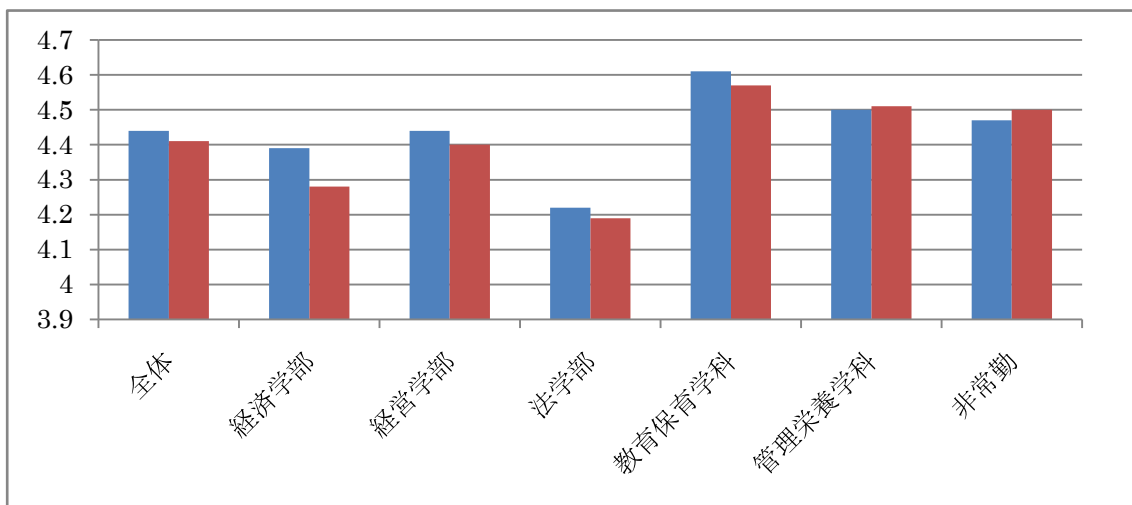
5. 2012年度「授業評価アンケート」質問項目ごとの教員所属学部・学科別分析

設問1. あなたは、この授業に出席していますか。

- 1 ほとんど出席している（出席率：90%以上）
- 2 かなり出席している（出席率：80%以上）
- 3 どちらともいえない（出席率：70%以上）
- 4 あまり出席していない（出席率：50%以上）
- 5 ほとんど出席していない（出席率：30%以上）

平均値

	前期	後期
全体	4.44	4.41
経済学部	4.39	4.28
経営学部	4.44	4.40
法学部	4.22	4.19
人間生活科学部・教育保育学科	4.61	4.57
人間生活科学部・管理栄養学科	4.50	4.51
非常勤	4.47	4.50



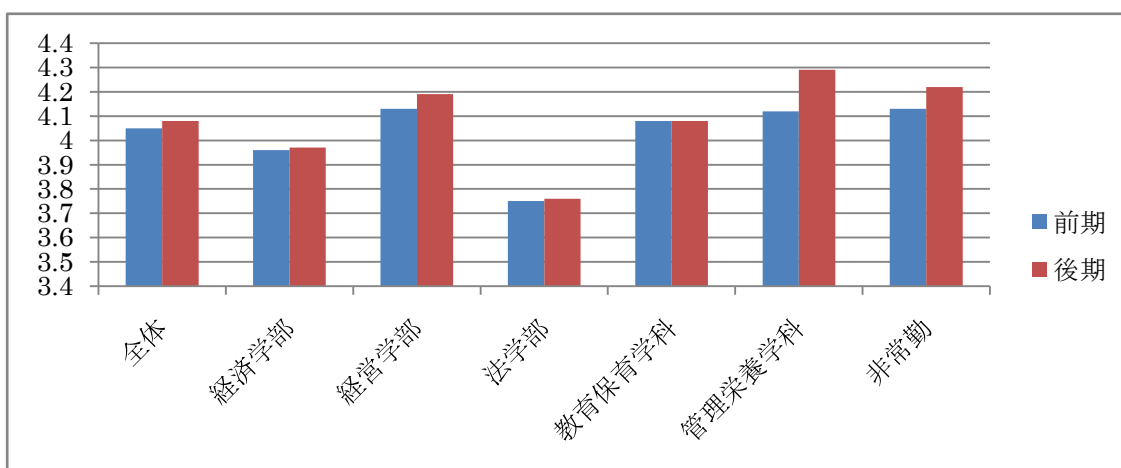
出席については、4.19～4.61 で全体として良好であるが、人間生活科学部の教育保育学科と管理栄養学科の平均値が社会学系3学部に比べて高い。両学科ともに、免許や資格に関係する科目や必修科目が多く、固定したクラス単位の授業開講が影響していると思われる。また、経済学部・経営学部・法学部ともに、前期より後期の平均値が低い。

設問2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。

- 1 非常に意欲的である
- 2 かなり意欲的である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり意欲的でない
- 5 全く意欲的でない

平均値

	前期	後期
全体	4.05	4.08
経済学部	3.96	3.97
経営学部	4.13	4.19
法学部	3.75	3.76
人間生活科学部・教育保育学科	4.08	4.08
人間生活科学部・管理栄養学科	4.12	4.29
非常勤	4.13	4.22



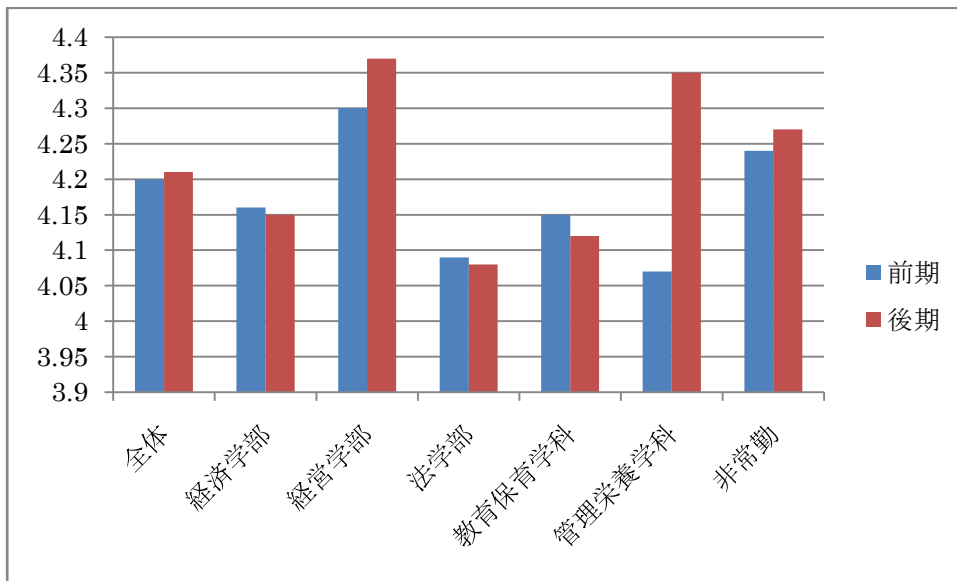
授業への意欲は、学部間に差がみられる。経済学部と法学部が前・後期とも 4.0 を切っている点が際立つ。管理栄養学科所属教員の後期科目について学生の意欲が高いことが際立っている。

設問 3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。

- 1 行われている
- 2 ほぼ行われている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり行われている
- 5 全く行われていない

平均値

	前期	後期
全体	4.20	4.21
経済学部	4.16	4.15
経営学部	4.30	4.37
法学部	4.09	4.08
人間生活科学部・教育保育学科	4.15	4.12
人間生活科学部・管理栄養学科	4.07	4.35
非常勤	4.24	4.27



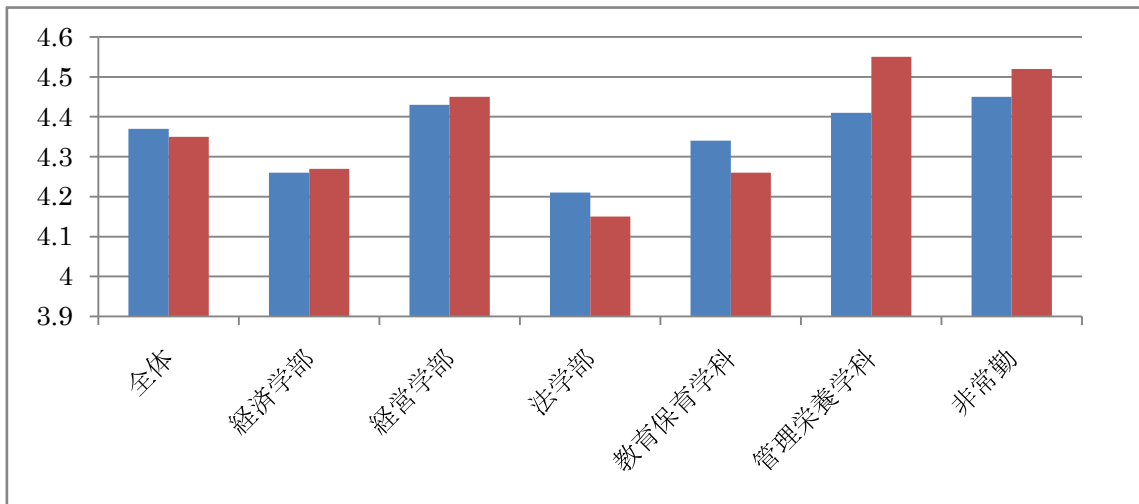
シラバスについては、どの学部も平均値 4.0 以上である。経営学部のポイントが高いことと、管理栄養学科の後期のポイントが高いことが際立っている。

設問 4. 教員は、授業時間を守っていますか。

- 1 非常に守っている
- 2 かなり守っている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり守っていない
- 5 全く守っていない

平均値

	前期	後期
全体	4.37	4.35
経済学部	4.26	4.27
経営学部	4.43	4.45
法学部	4.21	4.15
人間生活科学部・教育保育学科	4.34	4.26
人間生活科学部・管理栄養学科	4.41	4.55
非常勤	4.45	4.52



授業時間を守っているかについては、どの学部も平均値 4.1 以上 で、ほとんどの教員が「授業時間を守っている」といえる。法学部がやや低い。

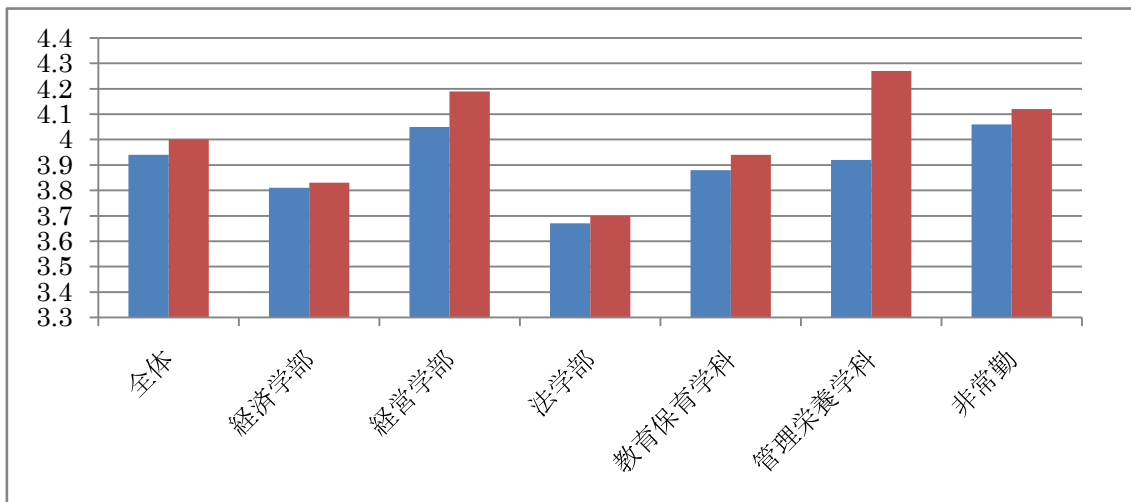
設問 5. 授業内容は、わかりやすいですか。

- 1 非常にわかりやすい
- 2 かなりわかりやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなりわかりにくい
- 5 非常にわかりにくい

授業内容については、どの学部も「かなりわかりやすい」の平均値 4.0 に近い。しかし、質問 12 の「専門用語がむづかしい」、「授業がつまらない」との回答がいずれも 30%前後示す結果からみて、質問 5 と 12 のクロス集計などによって、わかりにくい内容の詳細を検討することも必要である。

平均値

	前期	後期
全体	3.94	4.00
経済学部	3.81	3.83
経営学部	4.05	4.19
法学部	3.67	3.70
人間生活科学部・教育保育学科	3.88	3.94
人間生活科学部・管理栄養学科	3.92	4.27
非常勤	4.06	4.12



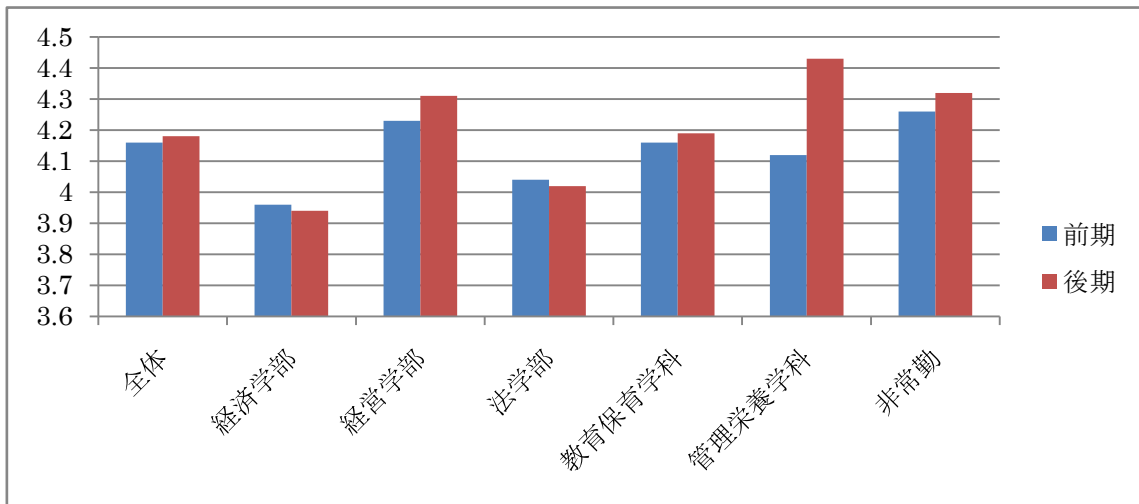
「わかりやすさ」については学部間に差がある。経済学部と法学部所属教員による授業がともに 4.0 以下となっている。

設問 6. 教員の声は聞きとりやすいですか。

- 1 非常に聞き取りやすい
- 2 かなり聞き取りやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり聞き取りにくい
- 5 非常に聞き取りにくい

平均値

	前期	後期
全体	4.16	4.18
経済学部	3.96	3.94
経営学部	4.23	4.31
法学部	4.04	4.02
人間生活科学部・教育保育学科	4.16	4.19
人間生活科学部・管理栄養学科	4.12	4.43
非常勤	4.26	4.32



「教員の声の聞き取りやすさ」については、経済学部所属教員の授業以外は、4.0以上でほぼ良好といえる。

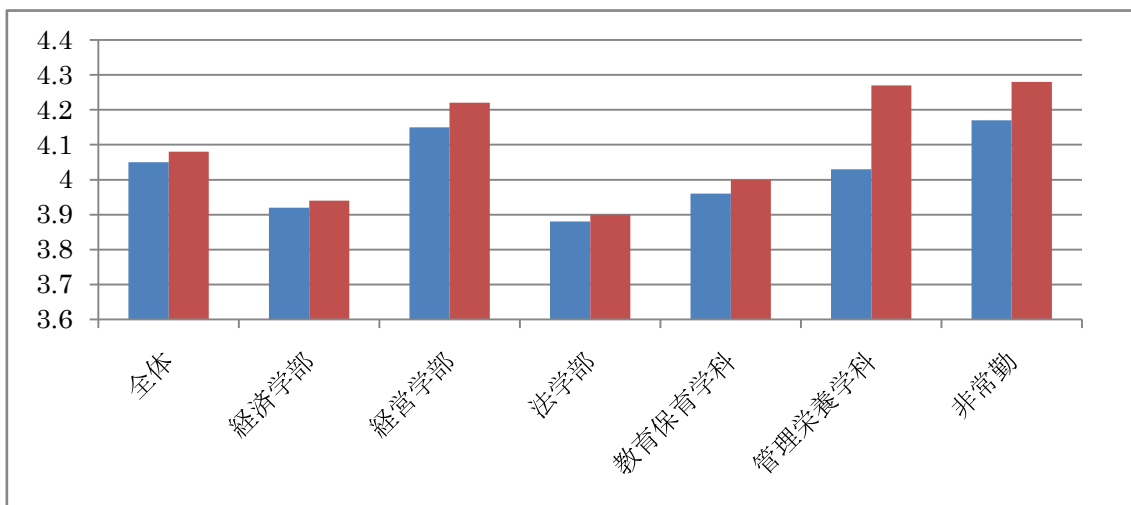
経営学部、管理栄養学科および非常勤の後期科目が高めである。

設問7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

平均値

	前期	後期
全体	4.05	4.08
経済学部	3.92	3.94
経営学部	4.15	4.22
法学部	3.88	3.90
人間生活科学部・教育保育学科	3.96	4.00
人間生活科学部・管理栄養学科	4.03	4.27
非常勤	4.17	4.28



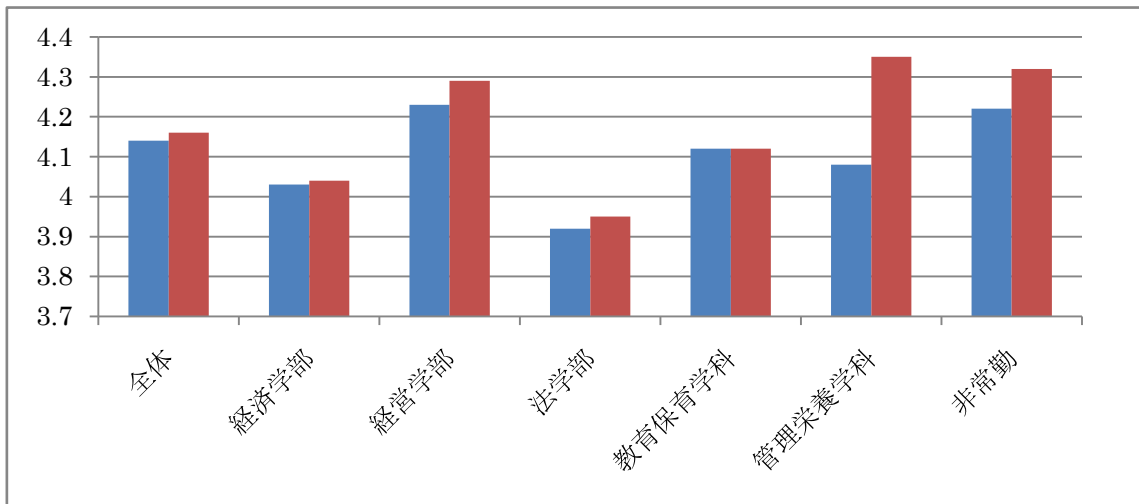
授業の速さや進め方については、経済学部、法学部、教育保育学科教員担当の科目の平均値が 4.0 以下で、一方、経営学部、管理栄養学科、非常勤担当の科目はやや高めである。

設問 8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。

- 1 非常に感じられる
- 2 かなり感じられる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり感じられない
- 5 全く感じられない

平均値

	前期	後期
全体	4.14	4.16
経済学部	4.03	4.04
経営学部	4.23	4.29
法学部	3.92	3.95
人間生活科学部・教育保育学科	4.12	4.12
人間生活科学部・管理栄養学科	4.08	4.35
非常勤	4.22	4.32



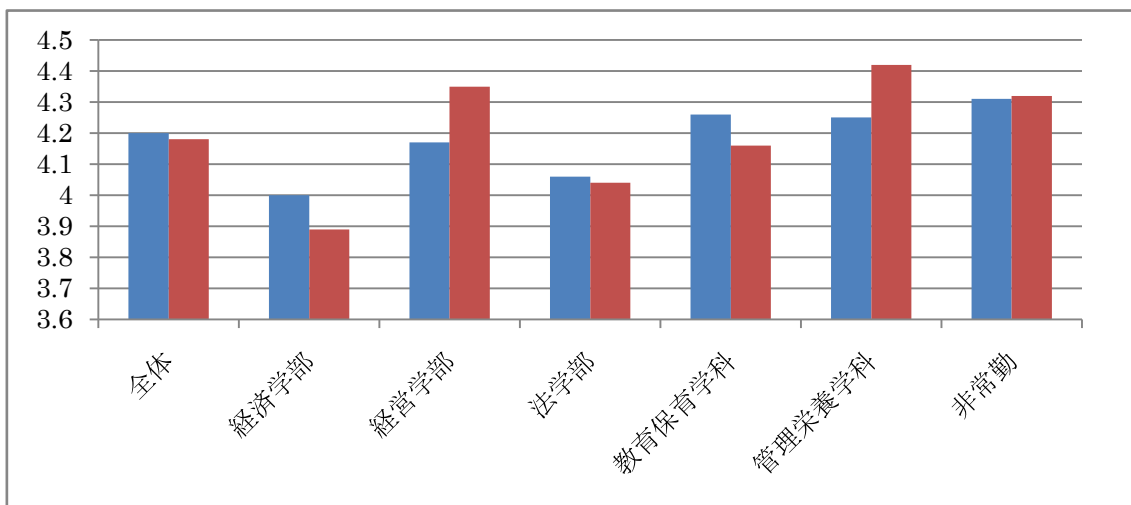
教員の教え方の熱意については、法学部教員担当科目について前・後期ともに 4.0 以下となっている。一方、経営学部、管理栄養学科の後期、非常勤教員担当の科目については良好な結果と言える。

設問 9. 教科書、配布資料が活用されていますか。

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

平均値

	前期	後期
全体	4.20	4.18
経済学部	4.00	3.89
経営学部	4.17	4.35
法学部	4.06	4.04
人間生活科学部・教育保育学科	4.26	4.16
人間生活科学部・管理栄養学科	4.25	4.42
非常勤	4.31	4.32



教科書、配付資料の活用については、経済学部教員後期担当科目を除き、4.0以上である。

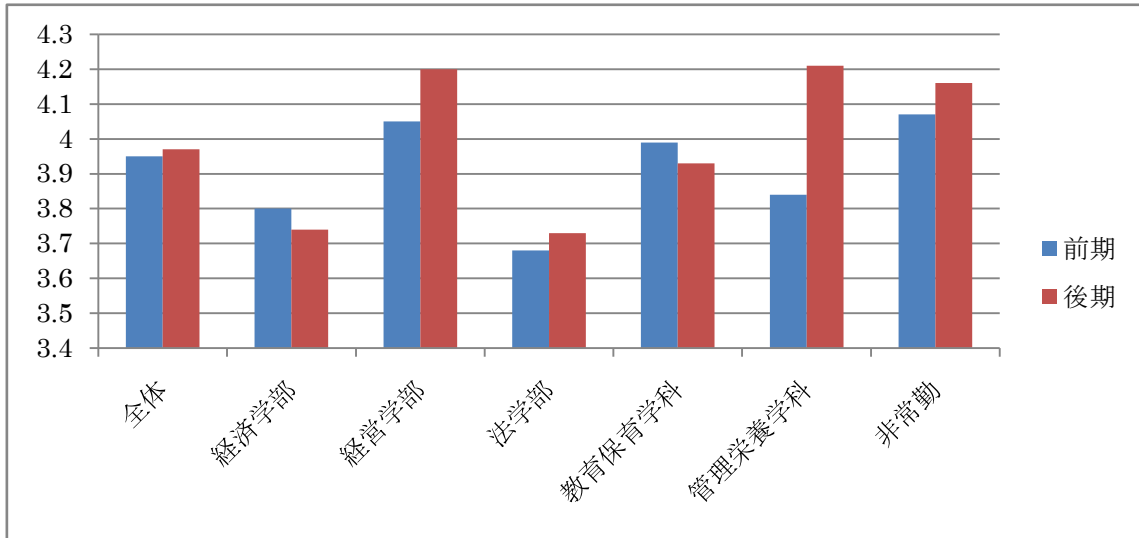
設問 10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。

正)

- 1 非常に見やすい。
- 2 かなり見やすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり見にくい
- 5 非常に見にくい

平均値

	前期	後期
全体	3.95	3.97
経済学部	3.80	3.74
経営学部	4.05	4.20
法学部	3.68	3.73
人間生活科学部・教育保育学科	3.99	3.93
人間生活科学部・管理栄養学科	3.84	4.21
非常勤	4.07	4.16



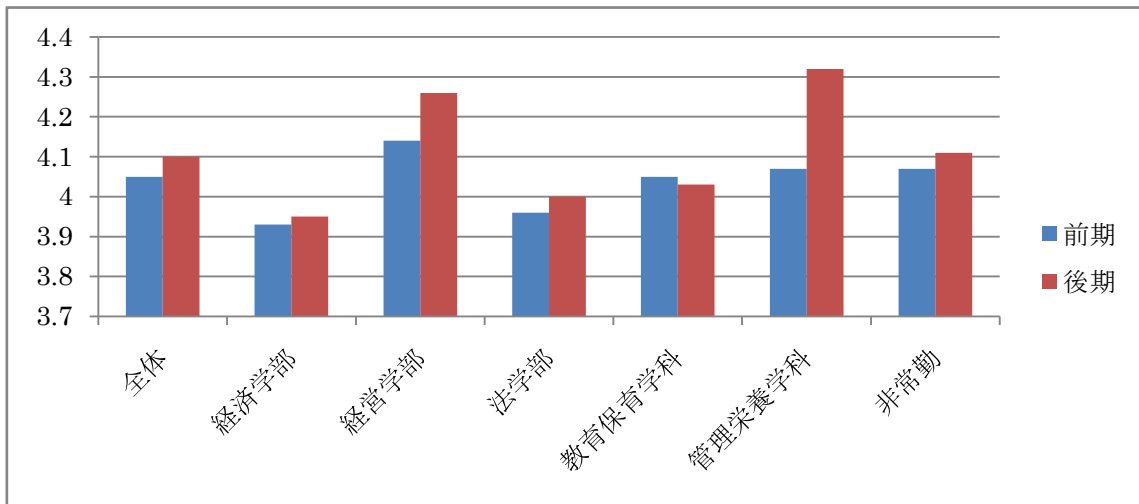
「板書やスクリーン・モニター」の利用に対する評価は、11 の設問中、最も平均値が低い。経営学部前後期、管理栄養学科後期、非常勤前後期以外、すべて 4.0 を割っている。今後の改善が最も求められている項目と言える。

設問 11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

平均値

	前期	後期
全体	4.05	4.10
経済学部	3.93	3.95
経営学部	4.14	4.26
法学部	3.96	4.00
人間生活科学部・教育保育学科	4.05	4.03
人間生活科学部・管理栄養学科	4.07	4.32
非常勤	4.07	4.11



「教室管理」については経済学部と法学部所属教員による授業でやや低い評価となっている。適切な教室管理は授業満足度を上げるために欠かせない要素である。

設問 12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から 3 項目以内で選んで下さい。

- 1 専門用語がむずかしい。
- 2 授業がつまらない。
- 3 授業内容をプリントにしてほしい。
- 4 受講人数が多すぎる。
- 5 休講が多い。
- 6 開講曜日や時限が悪い。
- 7 学生の取り扱いが不平等である。
- 8 教員がいばったり、学生を見くだす。
- 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない。
- 10 授業のための施設、設備に満足できない。

設問 12 の 3 つ以内の回答 (%) の結果は、次の通りである。

	経済学部		経営学部		法学部		教育保育学科		管理栄養学科	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
回答 1	29.3	36.2	44.7	42.6	38.6	38.1	33.2	48.1	41.1	31.3
回答 2	27.5	22.6	19.5	19.1	27.4	25.0	27.8	14.2	22.7	21.0
回答 3	12.9	16.0	9.3	5.6	15.5	10.6	6.8	7.5	9.3	15.1
回答 4	7.0	5.4	7.6	6.7	2.4	2.6	2.0	1.7	3.0	7.7
回答 5	1.8	1.4	1.9	3.1	0.5	2.6	3.7	0.8	2.3	1.1
回答 6	3.5	3.5	3.6	6.7	2.4	3.4	3.7	3.8	8.0	6.8
回答 7	4.1	3.3	1.9	5.0	2.1	4.0	4.4	3.8	5.0	8.5
回答 8	7.2	4.7	1.9	3.7	3.3	6.9	4.7	4.2	4.7	3.1
回答 9	1.4	2.4	2.5	0.8	4.0	1.7	6.1	10.0	2.3	1.5
回答 10	5.3	4.4	6.9	6.7	3.7	4.0	7.5	5.9	1.7	3.9

授業への不満については、前後期とも一番多いのは回答 1 の「専門用語がむずかしい」である。回答 2 の「授業がつまらない」、回答 3 の「授業内容をプリントにしてほしい」の順である。

設問 13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。

この質問への回答は、設定された自由記述欄に、授業について「良かった点」や「改善すべき点」を自由に記述する。個々の記述については担当教員が、データ処理後に配布されるアンケート用紙を確認し、「結果の考察」（現状の分析・改善点）の作成時に、データ処理された設問 1 から 12 までのアンケート結果の数値と合わせて参考資料としている。

D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。

1. はい
2. いいえ

設問 D の回答 (%) の結果は、次の通りである。

	経済学部		経営学部		法学部		教育保育学科		管理栄養学科	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
はい	64.7	66.4	61.6	70.2	64.4	64.0	46.1	50.2	44.5	39.9
いいえ	35.3	33.6	38.4	29.8	35.6	36.0	53.9	49.8	55.5	60.1

質問Dには「はい」「いいえ」以外に「回答なし」の場合もあるが、回答なしの結果は表には出していない。

授業のシラバスを読んだかについては、経済・経営・法学部ともに3分の2前後の学生が「はい」と回答している。一方、人間生活科学部では「いいえ」の回答が半分以上である。これは、人間生活科学部の場合、固定された授業が多いために、シラバスを読んでも授業を選ぶことが少ないことが関係しているのかもしれない。

6. 検討課題

2013 年度の年度授業評価アンケートについて、次のことを申し送り事項とする。

(1) 実施頻度変更について

本年度は担当科目について、原則 2 年に 1 回は授業評価アンケートを実施することにした。2013 年度は、各教員が 2012 年度に授業評価アンケートを実施しなかった科目について授業評価アンケートを実施する。

2013 年度終了時に、「2 年に 1 回」方式を継続するか、更なる改善を行うかを検討する必要がある。

(2) アンケート実施回答率（出席率）の向上について

受講数に対し、その回答率（有効回答数を受講生数で割る。アンケート実施日の学生の出席率）が前期 64.9%、後期 61%であった。特に法学部、経済学部は前後期ともに 60%を割っているので、履修登録者が最後まで受講し、出席率、単位取得率を上昇させる方策が必要である。

(3) オムニバス形式の授業について

オムニバス形式の授業については、担当者が複数であるため、評価の対象が不明確になることを考慮して、授業評価アンケートを実施していない。

2013 年度は、オムニバス形式の授業が増加する上に、必修科目の場合もあるので、授業評価アンケートを実施する方向で検討する必要がある。それに関連して質問項目の再検討も必要となるだろう。

(4) ゼミを対象にした授業評価アンケートの実施

以前より、ゼミナール形式の授業についての授業評価アンケートの必要性が論じられてきた。現行とは異なる形式による評価方法の考案が求められている。

(5) アンケート質問項目の精選とデータ処理について

今年度は「わかりやすさ」に加え、「教室管理」の視点でも、全実施科目の一覧表を作成した。また、「教室管理」と「わかりやすさ」「声の聴きやすさ」「テキスト、飼料の使い方」「黒板、スクリーン、モニターなどの使い方」とのクロス集計を行ったが、2013 年度の継続するか検討の余地がある。

(5) アンケート結果の公表について

授業評価アンケートの結果の公表は、2007 年度から授業評価アンケートの結果報告書を作成し、教員に配布するとともに、大学のホームページで公開している。2010 年度の場合も、同様の措置をとる。また、授業評価アンケートの結果については、各教員がその結果を生かしていくために、2008 年度から授業評価アンケート結果についての「現状の説明」と「改善点」に分けて考察し、それを PDF ファイルにしている。2010 年度もこの「結果の考察」を実施し、PDF ファイルを作成している。「結果の考察」の PDF ファイルは、2008 年度より学内のホームページに掲載し学生も見られるようにしている。2010 年度の場合も、同様の措置をとる。「結果の考察」PDF ファイルの大学のホームページ公開については、これの冊子作成と同様、検討課題となっている。

7. 2013年度「アンケート結果」と「結果の考察」のまとめについて
 実施科目について、数値化されたアンケート結果と回答者の自由記述を参考資料として、
 担当教員は「結果の考察」を作成し、そのPDFファイル（アンケート結果の数値、現
 状の説明、改善点が記載）は、学内ホームページに公開されている。

以上

第2部 学部学科別結果分析とコメント

<前期>

I. 法学部

1 実施概要について

法学部にあつては専任教員担当の対象科目は28科目あり、その全てでアンケートが
 実施された。しかしながら、対象科目履修者数に占める回答数の割合は、57.42%と全
 体に比べやや低い回答率であった。

2 分かりやすさについて

法学部においてアンケートが実施された科目数は非常勤担当科目を併せて45科目
 である。そのうち分かりやすいとの評価（4.0以上を対象とした）を得た科目数は、非
 常勤の担当科目を合わせて16科目（35.5%）であった。

3 教員所属（専任教員のみ） 集計結果について

各設問における普通以上の評価（5・4・3）のパーセンテージを合計してみたところ、
 法学部では各項目とも高い評価を得ることができている。

設問	内容	評価5～3の%の合計
1	あなたは、この授業に出席していますか	
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	
4	教員は、授業時間を守っていますか	
5	授業内容は、わかりやすいですか	
6	教員の声は聞き取りやすいですか	
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	
9	教科書、配布資料が活用されていますか	

10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	

しかしながら、上記1のように回答の割合が57%程度であり、4割強の学生の評価が反映されていない。

おそらく、アンケートに回答した学生たちは毎回真面目に授業に出席していた者たちであろうから、全体に評価が高かったのだらうと予想できるが、アンケート当日出席していなかった学生らの評価が加わったならばどうであっただろうか。

また、設問5及び設問10については、他の設問に比して評価が少し低かった。

4 学生視点（法学部全体）の結果

この集計では、専任教員の担当科目のみならず非常勤講師の担当科目も合算している。ただし、結果からも言える傾向は、上記3の場合とほぼ同じである。

設問	内容	評価5～3の%の合計
1	あなたは、この授業に出席していますか	97.
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	94.
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	97.
4	教員は、授業時間を守っていますか	95.
5	授業内容は、わかりやすいですか	89.
6	教員の声は聞き取りやすいですか	94.
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	94.
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	93.
9	教科書、配布資料が活用されていますか	94.
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	86.
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	92.

5 履修者数別 結果

法学部には履修者が150名を超える科目はない。そこで、まず、1～50人（Aとする）、51～100人（Bとする）、100～150人（Cとする）のグループごとの各設問における評価平均をみる。

設問	内容	A	B	C
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.2	4.2	4.2
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.8	3.8	3.6

3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.1	4.1	4.0
4	教員は、授業時間を守っていますか	4.1	4.4	4.0
5	授業内容は、わかりやすいですか	3.7	3.8	3.2
6	教員の声は聞き取りやすいですか	4.0	4.2	3.7
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	3.8	4.0	3.6
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	3.9	4.0	3.5
9	教科書、配布資料が活用されていますか	4.2	4.1	3.6
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.6	3.8	3.5
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	3.9	4.0	3.8
12	あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか(複数回答)	7.9	8.4	8.2
A	あなたの所属している学部・学科は、どこですか	3.1	3.0	3.0
B	あなたは、何年度入学ですか	6.8	7.0	7.6
C	あなたは、何年生ですか	3.9	4.0	4.6
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.6	1.7	1.7

これをみると、授業のわかりやすさ、聞き取りやすさ、進行、教員の熱意、教授方法、迷惑行為への対応

(設問5～11)のすべての項目について、Cのグループの評価が他のグループの評価よりも低いことがわかる。

次に、設問12の不満を感じる事項について回答だけを抽出し、それぞれの事項のパーセンテージをみしてみる。

設問 12		A	B	C
1	専門用語が難しい	33.2	40.1	44.3
2	授業がつまらない	32.7	27.0	19.7
3	授業内容をプリントにして欲しい	11.6	18.7	15.6
4	受講人数が多すぎる	0.5	3.2	4.1
5	休講が多い	1.0	0.0	0.8
6	開講曜日・時間が悪い	4.0	1.6	1.6
7	学生の取り扱いが不平等である	4.5	0.8	0.8
8	教員がいばったり、学生を見くだす	4.5	0.4	7.4
9	教科書が高い又は買っても使用しない	3.0	5.2	3.3
10	授業のための施設・設備に満足できない	5.0	3.2	2.5

受講人数別の不満事項については、やはり、人数が多くなるにつれ、回答4にマーク

する割合が多くなった。

また回答1及び回答8にマークしたのは、Cグループが最も多かった。

6 設問11 教室・授業管理 結果

アンケート対象となった専任教員担当科目（28科目）中評価の高い科目（評価平均4.0以上）は14科目と半分であった。

7 設問11 クロス集計

(1) 設問5とのクロス集計

法学部では以下の通りの結果となった。

			設問5 授業内容はわかりやすいですか					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	0	0	0	0	0	0
		1	1	178	63	46	8	8
		2	1	26	125	50	22	5
		3	1	16	41	138	24	12
		4	0	3	5	6	6	5
		5	0	0	4	2	3	10

(2) 設問6とのクロス集計

法学部では以下の通りとなった。

			設問6 教員の声は聞き取りやすいですか					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	0	0	0	0	0	0
		1	2	227	47	19	6	3
		2	1	58	127	31	8	4
		3	0	33	72	116	6	5
		4	0	7	7	8	2	1
		5	0	2	2	4	3	8

(3) 設問9とのクロス集計

法学部では以下の通りとなった。

			設問9 教科書、配布資料が活用されていますか					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	0	0	0	0	0	0
		1	2	226	46	23	5	2

		2	1	66	116	40	4	2
		3	1	35	66	114	9	7
		4	1	5	9	8	2	0
		5	1	1	5	2	3	7

(4) 設問 10 とのクロス集計

法学部では以下の通りとなった。

			設問 10 板書やスクリーン・モニタなどは見やすく示されていますか					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問 11	回答なし	0	0	0	0	0	0
		1	0	198	47	38	11	10
		2	1	31	107	58	20	12
		3	2	13	58	121	21	17
		4	0	2	7	7	6	3
		5	0	1	4	4	1	9

(5) クロス集計のまとめ

クロス集計全体としていえることは、教室・授業管理をしっかり行なっている場合には、学生のクロス項目の満足度も高くなるということである。

II. 経済学部

1. 前期実施概要について

回収率は100%で問題なかったが、学生の回答率(回答者数÷対象科目履修者数)のポイントが55.98%、全学最低であった。欠席者が多いということであり、非常に問題である。授業出席率が高いことが知られている管理栄養学科や教育保育学科の高ポイントから見ても、アンケートを取る前の段階で、経済学部ではすでに失格(あるいは、その予備軍)になっている学生が一番多くいるということが伺える。よく検討し、出席率をあげる努力をしなければならない。

2. 項目1～11について(概観)

経済学部では、5, 6, 7, 8, 9, 10, 11で全体平均を下回り、1, 2, 3, 4, では平均と同点である(小数点第二位までを見て)。

分かりやすさ、板書の使い方等、授業速度、教室管理が 3.8、3.9 であり、やや改善の余地がある。

その他の項目は 4.0 以上であり、まあまあかと思われる。

もちろん、改善の努力は常に行われなければならないが。

3. より詳しく見て

1) 項目 5 「授業はわかりやすいか」 について

各学部のポイントは経済 3. 8、経営 4. 1、法 3. 7 管栄 3. 9、
教保 3. 9、非常勤 4. 1 平均 3. 9 であった。

経済学部は、法学部に次いで 平均が低い。

2) 項目 5 の上位 50 の授業を見ると、3 学部（経済・経営・法学部）のうちでは、経営学部の数が一番多い。法学部が一番少ないが、経済もさほど変わらない状況である。

また、非常勤の先生の授業もたくさん入っている。

科目の種類では、情報系の授業が多い。

4. その他の点で

1) 項目 11 「教室管理」 について

各学部のポイントは経済 3. 9、経営 4. 1、法 4. 0 管栄 4. 1、
教保 4. 1、非常勤 4. 1 平均 4. 0 であった。

経済学部は、一番平均が低い。

2) 項目 11 の上位 50 の授業については、項目 5 の結果と類似したものとなった。

3 学部のうちでは、経営学部の授業が一番多く、経済学部が一番少ないが、法学部も少ない。

また、非常勤の授業が一番多く含まれる。科目の種類では、情報系のものが多い。

3) 情報系の科目のポイントが高いのは、今の学生にとってパソコンは身近な物で抵抗感があまりないからであろう。授業中は、私語も比較的少なく、ほとんどの学生がいやがらずに課題に取り組んでいる。

他の科目についても、情報の授業のように、出席し、いやがらずに授業に積極的に取り組むことができるような雰囲気作り、授業の組み立てを考える必要があるだろう。

4) 項目 5 と 11 についての上位 50 の中に、非常勤の先生方の授業が多いのも、

そのかなりの多くが情報関係のものであることもその一因であろう。
ただ、非常勤の他の科目も多く入っているので、この点も一考すべき点なのではないだろうか。

アンケートの結果から、授業のわかりやすさからも、教員の教室管理についても、他学部と比べ経済学部のポイントは低い。また、早々と失格者が出ることについても、他の学部よりも数が多い。これについては、今後の授業改善のために学部へ持ち帰り、会議の議題とすることが必要であろう。

教員個人に、自分の評価をよく検討してもらい、それぞれに改善・工夫の努力をしていただくよう促したい。

III. 経営学部

1. 実施対象科目数、実施率など

経営学部では、前期の授業評価アンケートの実施科目数は33科目であり、回収科目数も同33科目で、実施率は100%であった。なお、実施対象科目の履修者数は2,257人であり、その中で有効回答者数は1,414人で、回答率は62.65%であった。ちなみに、全学の回答率は64.91%であった。

履修登録者の37%がアンケート回答をしていない点に注目したい。アンケート実施日にたまたま欠席した場合もあるだろうが、実施時期が期末であることから、失格者、欠席の多い学生もかなりいることが推測される。履修者の成績を確認すればある程度のことかわかるだろう。

今後、履修登録者の出席率、単位取得率を上げるために、失格を含めた不合格者を減少させるための方策を考える必要がある。

2. 設問5「わかりやすさ」の結果について

1) 教員所属別と教員別の結果

設問5「授業内容は、わかりやすいですか」の平均値は4.1であった。また、01「非常にわかりやすい」と答えた学生は621人であり、有効回答者数に対する回答率は44%であった。

平均値が4.0を超えた科目数は、経営学部の実施科目数33科目中、22科目であった。

2) 学年別の結果

学年別の評価結果には一定の傾向性を見ることができる。

経営学部・経営学科 学年別平均値		
学年	有効回答者数	平均値
1年	470人	3.8
2年	259人	3.9
3年	420人	4.0
4年	233人	4.4
5年	2人	4.0
未回答・不明	9人	3.8

授業内容については、1年から4年までは、学年毎に「わかりやすさ」の平均値が高くなっている。一方、留年生と学年未回答・不明の学生は、逆に下がる傾向にある。

3. 設問 11 教室・授業管理の結果について

設問 11「一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか」の平均値が「かなり適切である」の 4.0 を超えた科目数は、経営学部実施科目数 33 科目中、22 科目であった。

4. 履修者数別のアンケート結果について

履修者数	授業数	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11
1～50人	19	4.5	4.2	4.4	4.5	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2	4.1	4.3
51～100人	5	4.5	4.0	4.2	4.5	3.7	4.2	4.0	4.1	3.7	3.7	4.0
101～150人	5	4.4	4.1	4.3	4.3	4.1	4.2	4.0	4.1	4.2	4.1	4.1
151～200人	3	4.5	4.1	4.3	4.4	4.1	4.2	4.2	4.3	4.3	4.0	4.1
201～250人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
251～300人	1	4.3	4.1	4.3	4.4	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.2	4.2

履修者別では、1～50人の授業数は19科目で、評価の平均値は全体的に高い数値となっている。51～100人の授業数は5科目であり、「わかりやすさ」「配布資料の活用」「板書等の見やすさ」などの項目の平均値には低い傾向が見られる。一方、100人以上の大人数授業は、逆に1～50人の少人数授業とあまり変わらず、全体的に高い評価を得ている。

5、クロス集計の結果について

設問 11「私語、携帯電話、遅刻など教室管理」と問 5「わかりやすさ」:

「非常に適切である」・「非常にわかりやすい」 505 人

設問 11「私語、携帯電話、遅刻など教室管理」と問 6「声の聞き取りやすさ」:

「非常に適切である」・「非常に聞き取りやすい」 562 人

設問 11「私語、携帯電話、遅刻など教室管理」と問 9「配布資料の活用」:

「非常に適切である」・「非常に活用されている」 514 人

設問 11「私語、携帯電話、遅刻など教室管理」と問 10「板書等の見やすさ」:

「非常に適切である」・「非常に見やすい」 455 人

以上の数字から、「教室管理」と授業のわかりやすさ、教員の声の聞き取りやすさの関係性が読み取れるように思われるが、確実なことは不明である。

経営学部 3 3 科目の「わかりやすさ」と「教室管理」をポイント順に並べてみると、上位 3 分の 1 の 1 1 科目には 7 科目が共通する。一方、下位 3 分の 1 の 1 1 科目では 9 科目が共通する。このことから、「わかりやすさ」と「教室管理」には関係があると推測できる。

具体的な科目を見ると、少人数で演習、実習型の授業が上位を占める。一方、専門科目、クラス規模の大きい授業が下位に目立つ。開講形式、クラスサイズに合わせて、学生の理解を深める授業内容を考慮し、また伝え方や教室管理の工夫も必要と思われる。

わかりやすさ上位3分の1

(教)情報科教育法I(木 4)	5.00
中国語入門(金 1)	4.90
スポーツI(木 4)	4.84
スポーツI(月 2)	4.66
ベンチャービジネス(火 4)	4.62
スポーツI(木 3)	4.55
中国語中級(木 4)	4.55
スポーツI(月 3)	4.52
日本語レッスンI(木 2)	4.47
スポーツI(月 1)	4.41
コンピュータ会計(月 2)	4.40

教室管理 上位3分の1

(教)情報科教育法I(木 4)	5.00
スポーツI(木 4)	4.86
スポーツI(木 3)	4.60
コンピュータ会計(月 2)	4.60
基本経営学(火 2)	4.58
スポーツI(月 2)	4.58
健康とスポーツ(木 1)	4.46
日本語レッスンI(木 2)	4.44
ベンチャービジネス(火 4)	4.38
スポーツと心理(水 3)	4.38
中国語中級(木 4)	4.36

わかりやすさ下位3分の1

日本思想史(火 4)	3.96
人的資源管理論(火 1)	3.89
簿記Ⅲ(応用簿記)(月 2)	3.84
基本簿記(水 3.金 1)	3.83
基本経営学(月 4)	3.68
基本簿記(水 3.金 1)	3.65
原価計算論(月 3)	3.62
現代企業論(火 2)	3.51
物理学(火 2)	3.30
基本経営学(火 4)	3.17
化学／基礎化学(火 1)	3.00

教室管理 下位3分の1

人的資源管理論(火 1)	3.96
基本簿記(水 3.金 1)	3.95
基本経営学(月 4)	3.91
簿記Ⅲ(応用簿記)(月 2)	3.88
現代企業論(火 2)	3.86
ネットワーク社会とビジネス(火 3)	3.86
原価計算論(月 3)	3.85
マネジメント・エンジニアリング(月 3)	3.78
化学／基礎化学(火 1)	3.74
物理学(火 2)	3.73
基本経営学(火 4)	3.37

IV. 人間生活科学部教育保育学科

今期のアンケートを教育保育学科では 50 音順に割り振って名字がアーカまでの教員（専任）を対象に行なった。対象科目は 25、回収科目 25、コメント提出科目数は 25 であった。対象科目履修者数は 670 名、回答者数は 527 名で、回収率は 78.7%であった。これは経済 55.9%、経営 62.7%、法 57.4%に比べると格段に高い。出席率が優れていることを暗示しており、まずはこれを評価しておきたい。（ただし、アンケートに現れない問題もある。当学科の学生は出席するが五月蠅いとよく言われる。これは向後の課題である。また、他学部には共通科目担当の教員も多く、この回答者数が教員所属学部の学生の出席率と直に連動していないことも考え置きたい。）

次に設問 1 1 と同 5,6,9,10 とのクロス集計であるが、これはアンケートの妥当性、信頼性にも関わるクロス集計であろうが、いずれも回答 1-1 同士のクロスが圧倒的に多く、以下 2-2,3-3 対応順となっていた（アンケートの妥当性が、ある程度は保証された）。

次に学生の学年別の回答をみても、それ程学年毎の差異に就いてみえて来るものはないけれども、やや強引に差異を引き出してみれば、教育保育の学生は 2,3 年になると出席なども積極的になるが、1,4 年はそれに比べるとやや消極的かなという印象は受ける。

「わかりやすさ」「全体ポイント順」に就いて、次に述べる。共通科目（選択）が 4.85 と「わかりやすさ」トップであり、教員免許科目（必修）が 2.3 ともっとも低い。前者は1年生を主対象とした共通科目であり、後者の教育保育学科の専門的な知識を扱う科目群とは性格が異なる。また、選択科目と必修科目とでは、履修する学生のあり方が異なる。選択科目は気に入らなければ履修をしなくともよいが、卒業必修科目、教員免許必修科目、資格必修科目は、卒業し、また免許や資格を取得しようと思えば、好まなくとも履修しなければならない。全体を見渡して、前者に高得点が多く、後者に低得点が多いように見受けられる。以上は誰が担当しているかということではなく、科目の性格というものがあるだろうということである。高（低）得点だからと一概に模範（悪例）とはならないのだ。

かつて本学に於いて、学生の質の低下が屢々喧伝され、そのような学生に合わせて小学児童、中学生徒程度の知識を暗記させればよいとする風潮が皆無でなかった。けれども、そのような時間の使用法では、大学に相応しい知識や知恵を身に付ける以前に時間切れで大学から退いてしまう場合もあったのではないか。大学の授業に於いて判りやすいことはたしかに重要な指標のひとつだろうが、それが常に最重要であるとは限らない。大学に相応しい内容を備えた上での判りやすさであるかを検証する必要も出てこよう。たとえば、「この授業は大学にふさわしい質を保っていると思いますか？」のような項目も作ってそれと分かりやすさとの相関を考えるなどの工夫はどうだろう。以上の視点に立って、新たな共通基礎科目群も授業内容を整える必要があるのではないか。

V. 人間生活科学部管理栄養学科

【目的】学生による授業評価の結果を分析し、教育の質の向上および改善を図ることを目的とする。

【対象と方法】対象科目は、2クラス編成の科目は各年で講義と実験・実習を変え、1クラスの場合は毎年実施することとした。よって対象科目は教養科目および他学部・学科を除く 25 科目である。

科目名
臨床栄養学実習 I(水 2.水 3.水 4)
臨床栄養学 II(火 4)
臨床栄養学 I(2 組)(月 4)

臨床栄養学演習(1組)(月 3.月 4)
公衆衛生学 I(月 3)
公衆栄養学実習(水 2.水 3.水 4)
食品学 I(2組)(水 1)
公衆栄養学 II(月 2)
栄養調理学実習(2組)(木 1.木 2.木 3)
食品学実験 I(2組)(木 2.木 3.木 4)
応用栄養学演習(木 1.木 2)
調理科学実験(1組)(水 1.水 2.水 3)
生化学実験 I(1組)(木 2.木 3.木 4)
食品学 I(1組)(水 2)
栄養教育論実習 II(木 1.木 2.木 3)
基礎栄養学(1組)(水 5)
フードスペシャリスト論(木 4)
栄養教育論 II(水 1)
生化学 I(2組)(水 2)
給食経営管理論 I(1組)(水 4)
応用栄養学 I(1組)(月 4)
解剖生理学実習 II(1組)(水 1.水 2.水 3)
バイオテクノロジー概論(木 4)
食品衛生学実習 I(2組)(木 1.木 2.木 3)
食品衛生学 I(1組)(金 1)

方法は、指定された期間の授業時間内に、対象科目の授業評価用紙（マークシート）学生へ配布し、自記式で記入する。科目担当教員が説明し、学生が回収した。

【結果】

1. 概要について

- (1) 他学部他学科に比較し回答率が 84.48%と高いのは、管理栄養士養成に関わる科目の特性から出席率が高いためと考えられる。
- (2) 1, 2 年次の教養科目については管理栄養学科のみの結果がないため、管理栄養士専門科目との比較はできない。

2. 設問 5 : 「わかりやすさ」について

- (1) 平均値は 3.82 ± 0.47 (3.00-4.59) であった。
- (2) 平均値を上回っていた科目数は 13/25 科目 (52%) であった。

科目名	平均	学年
食品衛生学実習 I(2組)(木 1.木 2.木 3)	3.00	2
食品衛生学 I(1組)(金 1)	3.10	2
応用栄養学 I(1組)(月 4)	3.22	2
応用栄養学演習(木 1.木 2)	4.06	2
生化学 I(2組)(水 2)	3.00	1
生化学実験 I(1組)(木 2.木 3.木 4)	3.35	1
臨床栄養学演習(1組)(月 3.月 4)	4.14	4
臨床栄養学 II(火 4)	4.59	3
臨床栄養学実習 I(水 2.水 3.水 4)	4.56	3
臨床栄養学 I(2組)(月 4)	4.31	3
栄養教育論 II(水 1)	3.58	2
栄養教育論実習 II(木 1.木 2.木 3)	3.63	2
フードスペシャリスト論(木 4)	3.80	2
公衆栄養学 II(月 2)	4.27	3
公衆衛生学 I(月 3)	4.27	3
公衆栄養学実習(水 2.水 3.水 4)	4.31	3
調理科学実験(1組)(水 1.水 2.水 3)	3.86	2
バイオテクノロジー概論(木 4)	4.27	3
基礎栄養学(1組)(水 5)	3.33	2
給食経営管理論 I(1組)(水 4)	3.36	2
栄養調理学実習(2組)(木 1.木 2.木 3)	4.33	2
解剖生理学実習 II(1組)(水 1.水 2.水 3)	3.83	2
食品学 I(2組)(水 1)	3.84	1
食品学 I(1組)(水 2)	3.80	1
食品学実験 I(2組)(木 2.木 3.木 4)	3.75	1

3. 設問 11 「教室管理」 について

(1) 平均値は 4.02 ± 0.31 (3.28–4.53) であった。

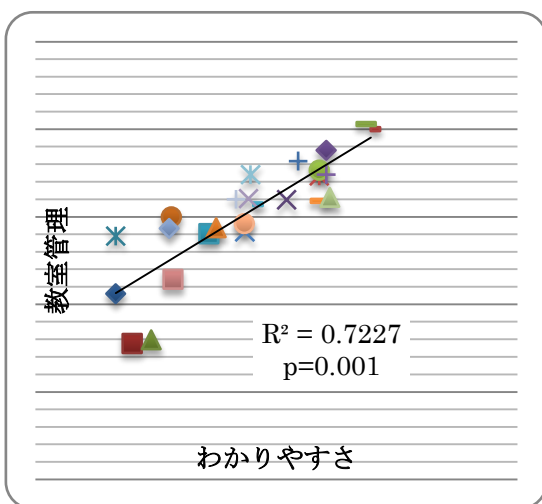
(2) 平均値を上回っていた科目数は 14/25 科目 (56%) であった。

科目名	平均	学年
臨床栄養学実習 I(水 2.水 3.水 4)	4.53	3
臨床栄養学 II(火 4)	4.50	3
臨床栄養学 I(2組)(月 4)	4.38	3

臨床栄養学演習(1組)(月3月4)	4.32	4
公衆衛生学 I(月3)	4.27	3
公衆栄養学実習(水2水3水4)	4.24	3
食品学 I(2組)(水1)	4.24	1
公衆栄養学 II(月2)	4.23	3
栄養調理学実習(2組)(木1木2木3)	4.11	2
食品学実験 I(2組)(木2木3木4)	4.10	1
応用栄養学演習(木1木2)	4.10	2
調理科学実験(1組)(水1水2水3)	4.07	2
生化学実験 I(1組)(木2木3木4)	4.00	1
食品学 I(1組)(水2)	3.96	1
栄養教育論実習 II(木1木2木3)	3.94	3
基礎栄養学(1組)(水5)	3.93	2
フードスペシャリスト論(木4)	3.91	2
栄養教育論 II(水1)	3.90	3
生化学 I(2組)(水2)	3.89	1
給食経営管理論 I(1組)(水4)	3.64	2
応用栄養学 I(1組)(月4)	3.30	2
解剖生理学実習 II(1組)(水1水2水3)	4.10	2
バイオテクノロジー概論(木4)	4.09	3
食品衛生学実習 I(2組)(木1木2木3)	3.56	2
食品衛生学 I(1組)(金1)	3.28	2

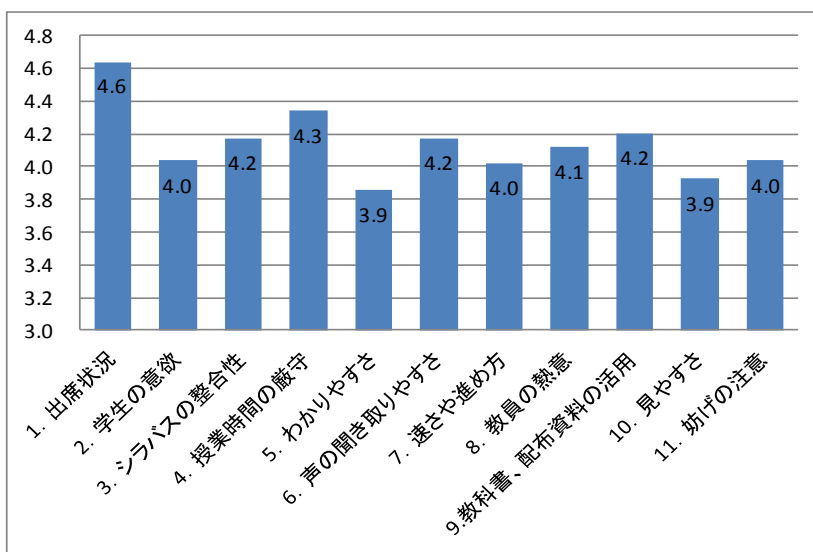
(3) 「教室管理」と「わかりやすさ」の関連性は、以下の通り有意な強い正の相関が認められた ($R^2=0.7227$ 、 $p=0.001$)。

学年	科目名	わかりやすさ	教室管理
2	食品衛生学実習I(2組)(木1.木2.木3)	3.00	3.56
2	食品衛生学I(1組)(金1)	3.10	3.28
2	応用栄養学I(1組)(月4)	3.22	3.30
2	応用栄養学演習(木1.木2)	4.06	4.10
1	生化学I(2組)(水2)	3.00	3.89
1	生化学実験I(1組)(木2.木3.木4)	3.35	4.00
4	臨床栄養学演習(1組)(月3.月4)	4.14	4.32
3	臨床栄養学II(火4)	4.59	4.50
3	臨床栄養学実習I(水2.水3.水4)	4.56	4.53
3	臨床栄養学I(2組)(月4)	4.31	4.38
2	栄養教育論II(水1)	3.58	3.90
2	栄養教育論実習II(木1.木2.木3)	3.63	3.94
2	フードスペシャリスト論(木4)	3.80	3.91
3	公衆栄養学II(月2)	4.27	4.23
3	公衆衛生学I(月3)	4.27	4.27
3	公衆栄養学実習(水2.水3.水4)	4.31	4.24
2	調理科学実験(1組)(水1.水2.水3)	3.86	4.07
3	バイオテクノロジー概論(木4)	4.27	4.09
2	基礎栄養学(1組)(水5)	3.33	3.93
2	給食経営管理論I(1組)(水4)	3.36	3.64
2	栄養調理学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.33	4.11
2	解剖生理学実習II(1組)(水1.水2.水3)	3.83	4.10
1	食品学I(2組)(水1)	3.84	4.24
1	食品学I(1組)(水2)	3.80	3.96
1	食品学実験I(2組)(木2.木3.木4)	3.75	4.10

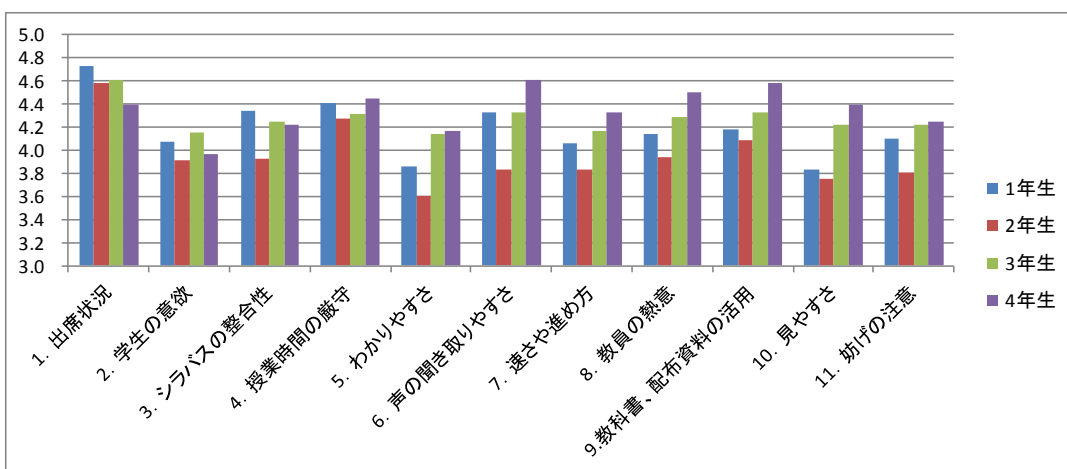


4. 管理栄養学科の平均値

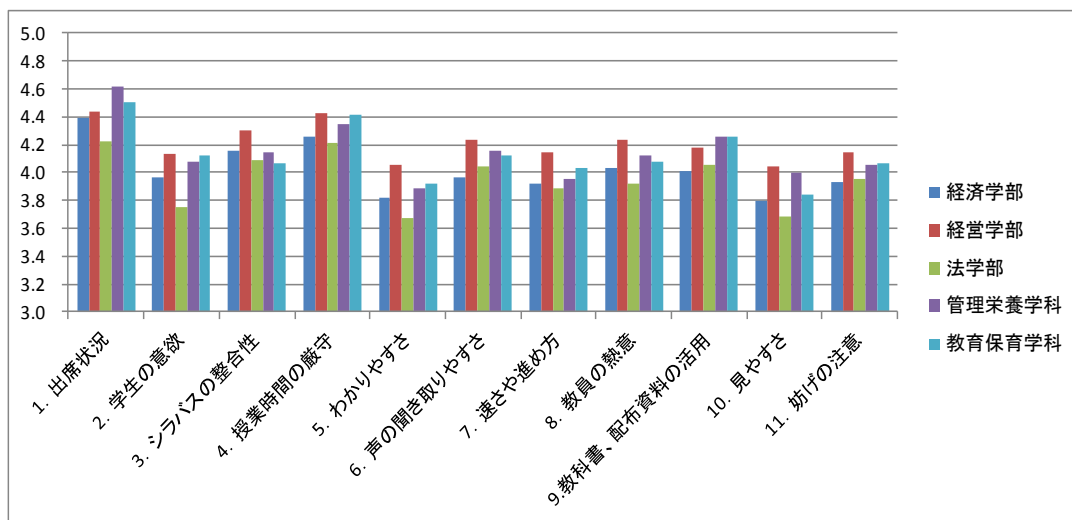
- (1) 全科目の平均値は、「わかりやすさ」と「見やすさ」が一番低く、板書やスクリーンの見にくさが理解力を妨げる可能性が考えられた。



(2) 学年平均値は、設問 5～11 までの項目に関して 2 年次の科目の平均値が一番低かった。



5. 学部・学科別では、他学部と比較して、出席率が高く学生の参加意欲に無関係な結果である。



6. 設問 11「教室管理」(縦軸)に関するクロス集計については、相関を調べていないのでわからないが、「わかりやすさ」「見やすさ」とは特に関連性が疑われる。

(1) 設問 5「わかりやすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	0	0	0	0	0	1
1	0	197	69	30	4	1
2	0	21	119	46	9	2
3	0	14	47	118	15	4
4	0	2	1	3	7	2
5	0	1	1	3	1	6

(2) 設問 6「声の聞き取りやすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	0	0	0	0	0	1
1	1	233	49	16	1	1
2	0	43	127	22	4	1
3	2	31	66	89	7	3
4	0	4	1	5	2	3
5	0	4	1	1	4	2

(3) 設問 9「教科書、配布資料の活用」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	1	0	0	0	0	0
1	0	238	49	11	2	1
2	0	56	117	18	5	1
3	1	49	58	86	4	0
4	0	4	3	6	1	1
5	0	2	6	2	2	0

(4)設問 10 「見やすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	1	0	0	0	0	0
1	2	223	38	24	9	5
2	2	40	116	28	5	6
3	0	26	48	105	10	9
4	0	3	1	5	6	0
5	0	2	1	4	3	2

【考察】

1. 教員の教室管理が問題なのではなく、板書やスクリーンが「見やすく」ないために、「わかりやすさ」つまり「理解」できず、教室管理が悪くなっていると考えられる。「教室管理」と「わかりやすさ」ともに学生評価が低い場合には、授業に用いる視聴覚媒体を見直す必要がある。
2. 特に今回 2 年次の授業評価が低いのが、学年次の特徴なのか、学生（集団）の特徴なのかを検討するためにも、次年度行う 3 年次アンケートと比較する必要がある。
3. 科目の特性もあるが、よりきめ細かな分析による改善を試みるには、講義と実験・実習のアンケート内容を一部変更する必要性を感じた。特に、実験・実習は実技を伴うもので、どのような指導や学生評価、また学生へのフィードバックが管理栄養士の実践に役立つのか、各科目共通の事項と基礎から応用への展開を考慮した授業内容が求められる。
4. 課題レポートは教育到達目標を明確にし、採点をして返却した後に模範レポートを示すことで学生は振り返りが容易にでき、学習意欲も増す。
5. 講義では、管理栄養士国家試験を踏まえ、授業開始時に前回の授業の一問一答を国家試験の過去問を基に数分行うことで、学生も復習意欲やわからないところがわかり、教員もガイドラインに沿った授業内容を実施しなければならなくなるので、教育の質が向上すると考える。
6. 目的である「教育の質の向上」を実践するためには、本学科で、どのような管理栄養士の養成を目指し、そのためにはどのような教育内容を充実すべきかを明確

にして、教員間で具体的な教育目標を定期的に確認し、学科内のコンセンサスを得ながら系統的な教育の改善および開発を行うことが望まれる。

<後期>

I. 法学部

1 実施概要について

法学部にあっては専任教員担当の対象科目は23科目あり、その全てでアンケートが実施された。しかしながら、対象科目履修者数に占める回答数の割合は、53.49%と全体に比べやや低い回答率であった。

2 分かりやすさについて

法学部所属教員が担当した科目中、わかりやすいとの評価（4.0以上を対象とした）を得た科目11科目（47.8%）であった。

わかりやすさの評価の高い専任教員

科目	平均
英語コミュニケーションⅡ(2)(木3)	5.00
商法(会社法を含む)(木1)	4.80
アジア会社法(月2)	4.57
企業会計法(木1)	4.44
英語コミュニケーションⅠ(月1)	4.42
保険法／保険法Ⅱ(水3)	4.42
手形法・小切手法Ⅱ(火1)	4.36
会社法特論(金2)	4.25
会社法／会社法Ⅱ(木1)	4.23
会社法／会社法Ⅱ(木1)	4.08
債権法総論／債権法総論Ⅱ(水3)	4.00

3 教員所属（専任教員のみ） 集計結果について

各設問における普通以上の評価（5・4・3）のパーセンテージを合計してみたところ、法学部では各項目とも高い評価を得ることができている。

設問	内容	評価5～3の%の合計
1	あなたは、この授業に出席していますか	97.31
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	92.51

3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	97.47
4	教員は、授業時間を守っていますか	94.04
5	授業内容は、わかりやすいですか	86.73
6	教員の声は聞き取りやすいですか	92.68
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	92.08
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	93.04
9	教科書、配布資料が活用されていますか	92.94
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	85.40
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	93.83

しかしながら、上記1のように回答の割合が53%程度であり、半数近くの学生がアンケートに参加しておらず、彼らの評価が反映されていない。

おそらく、アンケートに回答した学生たちは毎回真面目に授業に出席していた者たちであろうから、全体に評価が高かったのだろうと推察できる。

また、設問5及び設問10については、他の設問に比して評価が少し低かった点は、前期のアンケート結果と同様である。

4 学生視点（法学部全体）の結果

この集計では、専任教員の担当科目のみならず非常勤講師の担当科目も合算している。ただし、結果から言える傾向は、上記3の場合とほぼ同じである。

設問	内容	評価5～3の%の合計
1	あなたは、この授業に出席していますか	96.82
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	94.56
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	97.40
4	教員は、授業時間を守っていますか	96.82
5	授業内容は、わかりやすいですか	91.06
6	教員の声は聞き取りやすいですか	94.68
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	93.77
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	95.00
9	教科書、配布資料が活用されていますか	92.97
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	89.37
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	94.41

5 履修者数別 結果

法学部には履修者が150名を超す科目はない。そこで、まず、1～50人（Aとする）、51

～100人（Bとする）、100～150人（Cとする）のグループごとの各設問における評価平均をみる。

設問	内容	A	B	C
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.3	4.1	4.0
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.9	3.6	3.5
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.3	4.0	3.8
4	教員は、授業時間を守っていますか	4.3	4.2	3.8
5	授業内容は、わかりやすいですか	4.0	3.6	3.2
6	教員の声は聞き取りやすいですか	4.2	4.0	3.6
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.1	3.8	3.4
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.2	3.9	3.5
9	教科書、配布資料が活用されていますか	4.3	3.9	3.6
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.9	3.6	3.4
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.2	3.9	3.7
12	あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか(複数回答)	8.4	8.2	7.4

これをみると、授業のわかりやすさ、聞き取りやすさ、進行、教員の熱意、教授方法、迷惑行為への対応

（設問5～11）のすべての項目について、Cのグループの評価が他のグループの評価よりも低いことがわかる。

次に、設問12の不満に感じる事項について回答だけを抽出し、それぞれの事項のパーセンテージをみしてみる。

設問 12		A	B	C
1	専門用語が難しい	47.4	32.9	34.5
2	授業がつまらない	23.3	28.9	24.5
3	授業内容をプリントにして欲しい	8.3	17.1	9.4
4	受講人数が多すぎる	1.5	5.3	2.2
5	休講が多い	3.8	3.9	0.7
6	開講曜日・時間が悪い	3.0	1.3	5.0
7	学生の取り扱いが不平等である	5.3	2.6	3.6
8	教員がいばったり、学生を見くだす	6.0	2.6	10.1
9	教科書が高い又は買っても使用しない	0.0	2.6	2.9
10	授業のための施設・設備に満足できない	1.5	2.6	7.2

受講人数別の不満事項については、A グループでは他のグループに比べ、回答 1 と回答 7 にマークする学生が多い。B グループでは回答 2 ないし回答 5 にマークする学生が多かった。C グループでは回答 6、回答 8 ないし回答 10 にマークする学生が多かった。

6 設問 1 1 教室・授業管理 結果

アンケート対象となった専任教員担当科目（23 科目）中評価の高い科目（評価平均 4.0 以上）は 16 科目であった。

科目名	平均
英語コミュニケーションⅡ(2)(木 3)	4.83
アジア会社法(月 2)	4.81
企業会計法(木 1)	4.56
手形法・小切手法Ⅱ(火 1)	4.55
債権法総論／債権法総論Ⅱ(水 3)	4.38
会社法／会社法Ⅱ(木 1)	4.31
商法(会社法を含む)(木 1)	4.20
民法総則／民法総則Ⅱ(水 1)	4.18
会社法特論(金 2)	4.17
英語コミュニケーションⅠ(月 1)	4.17
会社法Ⅱ(木 1)	4.08
英語コミュニケーションⅠ(A)(1 年のみ)(木 1)	4.06
保険法／保険法Ⅱ(水 3)	4.05
英語ライティングⅠ(月 2)	4.05
英語コミュニケーションⅠ(D)(1 年のみ)(木 1)	4.00
トピック対策英語Ⅳ(金 2)	4.00

7 設問 1 1 クロス集計

(6) 設問 5 (授業内容は、わかりやすいですか)とのクロス集計

			設問 5				
			回答なし	1	2	3	4
法学部	設問 11	回答なし	0	0	2	0	0
		1	0	131	51	22	5
		2	1	16	79	36	5
		3	0	7	27	70	18
		4	0	0	3	5	3
		5	0	1	0	1	1

(7) 設問 6 (教員の声は聞き取りやすいですか)とのクロス集計

			設問 6				
			回答なし	1	2	3	4
法学部	設問 11	回答なし	0	1	1	0	0
		1	1	169	33	9	0
		2	1	29	90	18	2
		3	0	13	35	67	9
		4	0	1	4	5	3
		5	0	1	1	4	0

(8) 設問 9 (教科書、配布資料が活用されていますか) とのクロス集計

			設問 9				
			回答なし	1	2	3	4
法学部	設問 11	回答なし	1	1	0	0	0
		1	10	149	40	11	2
		2	6	29	85	15	5
		3	7	17	34	64	7
		4	0	4	1	5	4
		5	1	3	1	2	0

- (9) 設問 10 (板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか)とのクロス集計

			設問 10				
			回答なし	1	2	3	4
法学部	設問 11	回答なし	1	0	0	1	0
		1	8	143	35	17	5
		2	5	18	81	26	10
		3	7	6	17	73	15
		4	0	2	4	2	4
		5	0	0	1	1	0

- (10) クロス集計のまとめ

いずれのクロス集計にあっても、教室・授業管理をしっかり行なっている場合には、クロス項目の満足度も高くなっている。逆に、教室管理についての評価が低い(回答5にマークした)場合には、クロス項目の評価も低い。

II. 経済学部

1. 後期実施概要について

経済学部は前期と同様に、回答率(回答者数÷対象科目履修者数)のポイントが4学部5学科中一番低い。このことは、(出席率が高いと言われている)管理栄養学科のポイントが一番高いことからわかるように、アンケートを取る段階ですでに多くの学生が失格(あるいは、その予備軍)になっていることを表していると考えられる。

2. 教員所属別平均一覧について

経済学部では、すべての項目で全体平均より下回っている。特に、設問項目5と11が低い。

3. 項目5「授業はわかりやすいか」について

各学部のポイントは経済 3.83、経営 4.19、法 3.70 管栄 3.94、教保 4.27、

非常勤 4.12、平均 4.00 であった。経済学部は、前期と同様に法学部に次いで平均が低い。

4. 項目 11「教室管理」 について

1) 各学部のポイントは経済 3.95、経営 4.26、法 4.00 管栄 4.03、教保 4.32、非常勤 4.11、平均 4.10 であった。経済学部は、前期と同様一番ポイントが低い。

2) 項目 11 の上位 50 の授業については、前期と同じく 3 学部のうちでは、経営学部の授業が一番多く、経済学部が一番少ない。

5. 設問 11「教室管理」と設問 5「授業内容のわかりやすさ」、6「教員の声の聞き取りやすさ」、9「教科書、配付資料の活用度」、10「板書、スクリーンモニター」をクロス集計すると

設問 9 と 10 より、設問 5 と 6 のほうが、設問 11 との相関関係が強いようである。つまり、授業内容が分かりやすいほど、教員の声が聞き取りやすいほど教室管理はやりやすいのではないかと推定される。(ただし、経済学部の結果のみを見て)

6. 全体を見て

アンケートの結果から見て、前期と同様経済学部のポイントは低い。また、失格者の数も他学部よりも多いようだ(アンケートに答える人の割合が少ないことから判断して)。前期とほぼ同じ結果が出たことについて、今後どのように改善していくかを、学部で協議し、対策を考える必要があると思われる。

III. 経営学部

1. 実施対象科目数、実施率、コメント提出率

所属名	対象科目	回収科目数	回収率	コメント 提出科目数	コメント 提出率
【全体】	146	143	97.95	140	97.90
経営学部	26	24	92.31	24	100.00

所属名	対象科目 履修者数	回収科目 履修者数	回答者数	回答率
【全体】	6,558	6,489	3,994	61.55
経営学部	1,485	1,430	804	56.22

回答率が前期の62.65%に比べて低くなったことは注目すべきであろう。前期の結果総評でも未回答率の高さから「失格者、欠席の多い学生がかなりいること」が推測され、出席率の問題が言及された。後期の未回答率はおよそ44%に達している。出席率の問題は依然として全体的な課題となっていることがわかる。

今後、履修登録者の出席率、単位取得率を上げるための対策を立てられることが望ましい。今年度末に予定されている各種の教員研修プログラムが一定の効果をもたらすことに期待したい。

2. 設問1～11の結果分析<「わかりやすさ」と「教室管理」を中心に>

* 設問項目

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	教員は、授業時間を守っていますか
5	授業内容は、わかりやすいですか
6	教員の声は聞き取りやすいですか

7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか
9	教科書、配布資料が活用されていますか
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか

*** 教員所属別平均**

所属	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11
全体	4.41	4.08	4.21	4.35	4	4.18	4.08	4.16	4.18	3.97	4.1
経営学部	4.4	4.19	4.37	4.45	4.19	4.31	4.22	4.29	4.35	4.2	4.26

経営学部所属教員担当科目の平均ポイントを見ると、大学全体の平均を上回り、良好である。「わかりやすさ」は他の設問と比較すると多少低い。

*** 学生視点<学部全体と学年別> ()内は有効回答数**

設問	全体	1年 (310)	2年 (316)	3年 (185)	4年 (76)
1	4.4	4.4	4.4	4.4	4.0
2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.0
3	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3
4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4
5	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1
6	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2
7	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1
8	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2
9	4.2	4.3	4.0	4.3	4.3
10	3.9	3.9	3.8	4.2	4.1
11	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1
1～11平均	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2

経営学部の学生視点からすると、「わかりやすさ」は学部全体では平均 4.0 である。1 年生の平均がやや低く、3.9 である。学年毎に平均値が微かに上昇傾向にあるが、前期と共通する傾向である。「教室管理」については平均値が 4.1 であり、全体として教室管理が適切に行われていると言えよう。

「教室管理」と「わかりやすさ」「教員の声の聞こえやすさ」「教科書、配布資料の活用」「板書、スクリーン、モニターの見やすさ」の 4 項目のクロス集計を行なった（詳細データは省略）。どの項目についても、肯定的な回答には相関が見られた。一方、否定的な回答である「教室管理があまりうまくいっていない／うまくいっていない」と考える回答 4、5 の学生の回答をみると、「教室管理があまりうまくいっていない」と評価する学生は、他の項目についての回答は必ずしも否定的ではない。しかし「教室管理がうまくいっていない」と評価する 5 の学生は、他の項目についても否定的な回答をする傾向が見られた。これはいろいろと解釈できると思われる。中にはあまり考えず、すべて 5 の回答をする場合もあるかもしれない。あるいは、「教室管理」は評価できないが、授業内容はよく理解できる学生が一部いるという推測もできるのではないかと思われる。

* クラスサイズ別の「わかりやすさ」と「教室管理」

クラスサイズ	項目	平均ポイント
1～50人 <13クラス>	設問1～11	4.4
	設問5「わかりやすさ」	4.3
	設問11「教室管理」	4.3
51～100人 <7クラス>	設問1～11	4.2
	設問5「わかりやすさ」	4.3
	設問11「教室管理」	4.3
101～150人 <3クラス>	設問1～11	4.3
	設問5「わかりやすさ」	4.1
	設問11「教室管理」	4.2
151～200人 <1クラス>	設問1～11	4.2
	設問5「わかりやすさ」	4.3
	設問11「教室管理」	3.8

クラスサイズから見た経営学部所属教員担当科目については、「わかりやすさ」は 4 サイズともすべて 4.3 で良好と言える。一方、「教室管理」は 100 人を越えるクラスでも良く管理されている。150 人を越えるクラスは 1 つであるが、3.8 は受講者が多いことが関係しているかもしれない。

3. シラバスの利用について

	「はい」(%)	「いいえ」(%)
全体	72.5	27.5
1年	68.5	31.5
2年	71.4	28.6
3年	79.9	20.1
4年	78.9	21.1

シラバスの利用率は学年が上がると、上昇傾向にあり、3、4年生では8割近くが確認していることがわかる。学生は授業内容とともに「評価の方法」に関心が高いことも関係しているかもしれない。今後もわかりやすいシラバスの作成が求められる。

IV. 人間生活科学部教育保育学科

今期のアンケートを教育保育学科では50音順に割り振って名字がアーカまでの教員（専任）を対象に行なった。対象科目は25、回収科目25、コメント提出科目数は25であった。対象科目履修者数は777名、回答者数は517名で、回収率は66.5%であった。これは経済51.3%、経営56.2%、法53.5%に比べると高い。これは前期と同様、学生の出席率が優れていることを示しており、まずはこれを評価しておきたい。ただし、前期に比べて低いことも指摘しておきたい。

さて、設問順に見てみよう。設問1は出席率を問うている。教育保育学科は4.4でこれは管理栄養学科4.6に次いで2番目の数字である（全体平均4.4）。設問2は授業参加へのモチベーションだが、これは教育保育学科4.4（全体平均4.1）で1位。設問3は授業のシラバスへのコンプライアンスだが、これは教育保育学科4.35（全体平均4.21）で2位（1位は経営学部の4.37）。設問4は授業時間へのコンプライアンスだが、これは教育保育学科4.6（全体平均4.4）で1位。設問5は授業の「分かりやすさ」だが、これは教育保育学科4.3（全体平均4.0）で1位。設問6は授業時の発声の明瞭さだが、これは教育保育学科4.4（全体平均4.2）で1位。設問7は授業の進度の適切性だが、これは教育保育学科4.3（全体平均4.2）で1位。設問8は学生から見た教員のモチベーションだが、これは教育保育学科4.4（全体平均4.2）で1位。設問9はテ

キストなどの適切な使用だが、これは教育保育学科 4.4（全体平均 4.2）で 1 位。設問 10 は板書などの見やすさだが、これは教育保育学科 4.2（全体平均 4.0）で 1 位。設問 11 は授業環境を保守するための適切な注意だが、これは教育保育学科 4.3（全体平均 4.1）で 1 位。と概ね、良好と位置づけられよう。（経済・経営・法・管理栄養・教育保育学科間の比較による）。

さて、「わかりやすさ」「全体ポイント順」に就いて、次に述べる。当該学科ではわかりやすさが 4 ポイント台に 25 科目中 20 と科目がランクしていた。これは他学部と比べるとけっこう高い数値であり、ここに当該学科教員の健闘があると考ええる。一方、3 ポイント台に残りの 5 科目があるが、その中には卒業必修科目や資格・免許必修科目が含まれる。これは前期にも指摘したように、全員が履修しなければならない科目では、モチベーションに係わらず履修登録が要請される。一方、共通科目や専門選択科目などは履修が自由な分、モチベーションの高い学生だけが履修するという事情がある。「わかりやすさ」という指標が即座に優れた授業を指すわけではないことを理解しておきたい。

ここで、ついでに最近の本学学生の質について、感想を述べる。小学校などでは、成績分布がなだらかなぼた山のようにになっているが、教育保育学科の学生は入学時から極端なH型の分布を示している（共通科目でもそういう傾向はあるが）。そういうときにどこに向かって授業をすればよいのか。優秀な学生に向かって授業をすると、学力に余裕のない学生に不満が生じる。また、その逆も起こる。中庸を選ぶと両者ともに不満が生じる。このような成績分布の傾向が、授業評価アンケートにも影響を与えている可能性について、ここに問題登録をしておきたい。

最後に。「大学の授業において判りやすいことはたしかに重要な指標のひとつだろうが、それが常に最重要であるとは限らない。大学に相応しい内容を備えた上での判りやすさであるかを検証する必要も出てこよう。たとえば、「この授業は大学にふさわしい質を保っていると思いますか？」のような項目も作ってそれとわかりやすさとの相関を考えるなどの工夫はどうだろう。以上の視点に立って、新たな共通基礎科目群も授業内容を整える必要があるのではないかと前期に述べたが、その気持ちは今に同じい。来年度からは全学的にカリキュラムの大幅な刷新が図られる。それとの兼ね合いは、どのように進捗するのか。教育保育学科は、教員免許や保育士資格などの取得に係わって、文部科学省や厚生労働省との関係があり、他学部とは同一の歩調を取り得ないが、「学びの空気」というものは、同じキャンパスの中で影響を受ける(あるいは与える)関係にある。これを無視し得ない。注視していきたい。

V. 人間生活科学部管理栄養学科

【目的】 学生による授業評価の結果を分析し、教育の質の向上および改善を図ることを目的とする。

【対象と方法】

対象科目は、2クラス編成の科目は各年で講義と実験・実習を変え、1クラスの場合は毎年実施することとした。よって対象科目は教養科目および他学部・学科を除く31科目である。

方法は、指定された期間の授業時間内に、対象科目の授業評価用紙（マークシート）を学生へ配布し、自記式で記入する。科目担当教員が説明し、学生が回収した。設問項目は以下の通りである。

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	教員は、授業時間を守っていますか
5	授業内容は、わかりやすいですか
6	教員の声は聞き取りやすいですか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教員の教え方には、熱意が感じられますか
9	教科書、配布資料が活用されていますか
10	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか(複数回答)
A	あなたの所属している学部・学科は、どこですか
B	あなたは、何年度入学ですか
C	あなたは、何年生ですか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

【結果】

7. 概要について

- (3) 管理栄養士養成に関わる必須科目が多いため他学部他学科に比較し回答率が78.76%と高いが、後期に臨地実習で欠席者があったため前期より回答率が低かったと考えられる。
- (4) 1, 2年次の選択教養科目については管理栄養学科のみの結果がないため、管理栄養士専門科目との比較はできなかった。

所属名		対象 科目数 (A)	回収 科目数 (B)	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
前期	経済学部	20	20	1,163	1,163	651	55.98
	経営学部	33	33	2,257	2,257	1,414	62.65
	法学部	28	28	1,409	1,409	809	57.42
	人間生活科学部・管理栄養学科	26	23	950	857	724	84.48
	人間生活科学部・教育保育学科	25	25	670	670	527	78.66
後期	経済学部	25	25	1,680	1,680	863	51.37
	経営学部	26	24	1,485	1,430	804	56.22
	法学部	23	23	974	974	521	53.49
	人間生活科学部・管理栄養学科	31	31	1,182	1,182	931	78.76
	人間生活科学部・教育保育学科	25	25	777	777	517	66.54
【全体】		146	143	6,558	6,489	3,994	61.55

8. 設問 5 : 「わかりやすさ」、設問 11 「教室管理」について

- (3) 「わかりやすさ」の平均値は 4.0 ± 0.48 ($4.60 - 2.71$) であった。平均値を上回っていた科目数は 20/31 科目 (65%) であり、前期の 52% より高い値となった。
- (4) 「教室管理」の平均値は 4.1 ± 0.3 ($4.64 - 3.44$) であった。平均値を上回っていた科目数は 22/31 科目 (71%) であり、前期の 56% より高い値となった。

わかりやすさ

教室管理

科目名	平均
食品機能論(木4)	4.60
食品学II(2組)(木3)	4.46
調理学実習(1組)(水1.水2.水3)	4.45
臨床栄養学III(月3)	4.45
臨床栄養学実習II(水2.水3.水4)	4.45
応用栄養学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.44
食品学実験II(1組)(火2.火3.火4)	4.44
生命科学(木1)	4.36
フードコーディネート論(火2)	4.30
解剖生理学II(2組)(月4)	4.28
公衆衛生学II(火3)	4.28
解剖生理学実習(2組)(水1.水2.水3)	4.28
応用栄養学II(1組)(月1)	4.24
健康管理論(2組)(月3)	4.24
栄養教育論演習(火4)	4.21
調理学(1組)(火1)	4.17
総合栄養学(木3)	4.12
食品官能検査・鑑別論(木5)	4.12
栄養教育論I(1組)(水2)	4.00
公衆衛生学実習(水2.水3.水4)	4.00
給食経営管理論実習(1組)(火1.火2.火3)	3.96
病態学II(1組)(金1)	3.84
公衆栄養学I(1組)(月3)	3.79
食品衛生学II(1組)(水1)	3.74
給食経営管理論II(2組)(月1)	3.68
スポーツと栄養(水4)	3.40
栄養教育論実習I(2組)(木1.木2.木3)	3.39
食品衛生学実習II(1組)(火1.火2.火3)	3.32
食品衛生学II(2組)(水2)	3.12
生化学II(1組)(木3)	3.04
生化学実験II(2組)(火2.火3.火4)	2.71

平均値 4.00 ±0.48
(4.60-2.71)

科目名	平均
調理学実習(1組)(水1.水2.水3)	4.64
調理学(1組)(火1)	4.54
臨床栄養学III(月3)	4.48
臨床栄養学実習II(水2.水3.水4)	4.48
栄養教育論I(1組)(水2)	4.41
応用栄養学II(1組)(月1)	4.36
フードコーディネート論(火2)	4.33
食品官能検査・鑑別論(木5)	4.26
栄養教育論演習(火4)	4.25
給食経営管理論実習(1組)(火1.火2.火3)	4.23
応用栄養学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.22
解剖生理学II(2組)(月4)	4.20
公衆衛生学II(火3)	4.20
食品学II(2組)(木3)	4.19
総合栄養学(木3)	4.12
生命科学(木1)	4.12
健康管理論(2組)(月3)	4.04
公衆衛生学実習(水2.水3.水4)	4.04
病態学II(1組)(金1)	4.00
食品学実験II(1組)(火2.火3.火4)	4.00
食品機能論(木4)	4.00
食品衛生学実習II(1組)(火1.火2.火3)	4.00
食品衛生学II(1組)(水1)	3.96
給食経営管理論II(2組)(月1)	3.96
公衆栄養学I(1組)(月3)	3.96
解剖生理学実習(2組)(水1.水2.水3)	3.96
栄養教育論実習I(2組)(木1.木2.木3)	3.89
生化学II(1組)(木3)	3.63
生化学実験II(2組)(火2.火3.火4)	3.54
スポーツと栄養(水4)	3.50
食品衛生学II(2組)(水2)	3.44

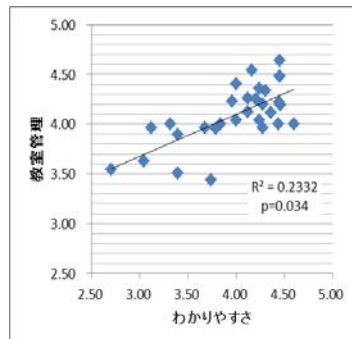
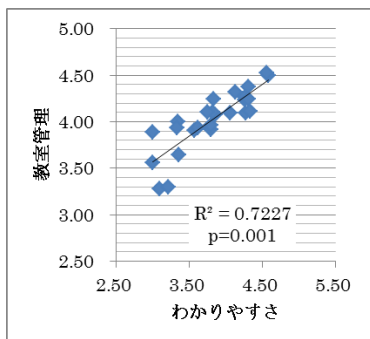
平均値 4.10 ±0.3
(4.64-3.44)

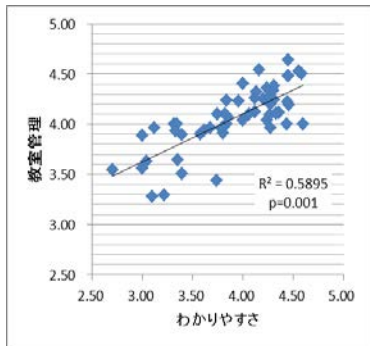
9. 「わかりやすさ」と「教室管理」との間には、前期同様、正の相関傾向が見られ ($R^2 = 0.2332$, $p = 0.034$)。1年間でも強い正の相関関係が見られた ($R^2 = 0.5895$, $p = 0.001$)。

前期

後期

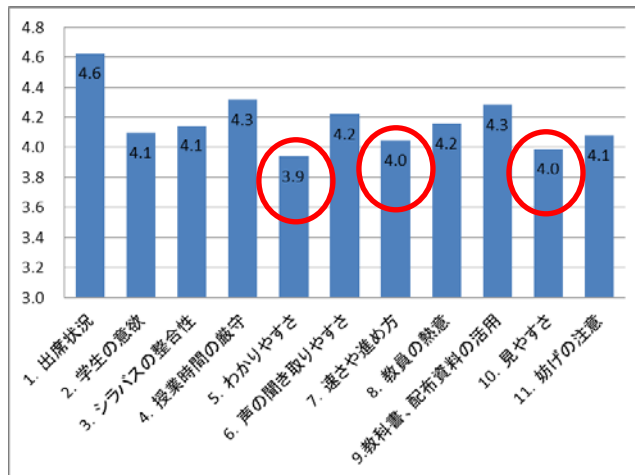
1年間(前期+後期)



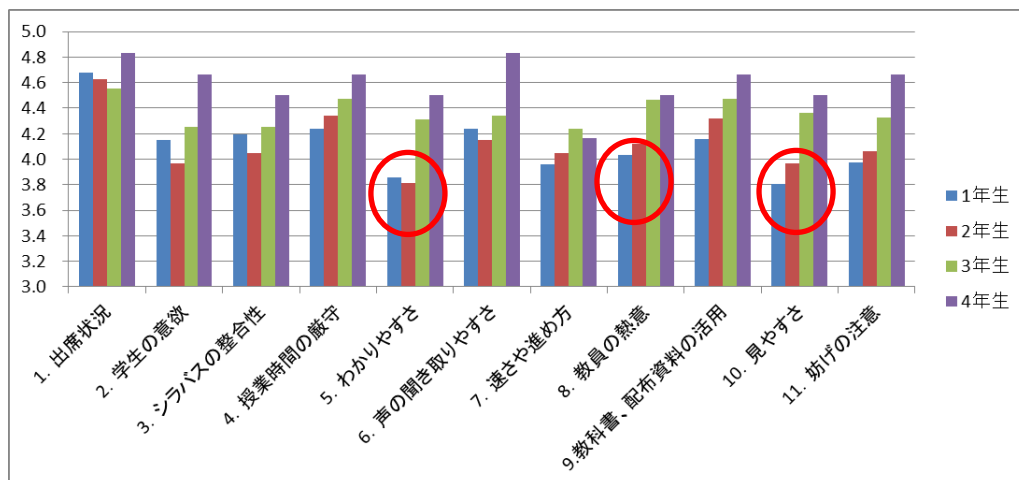


10. 管理栄養学科の平均値

(1) 全科目の平均値は、「わかりやすさ」が一番低く、次に「速さ進め方」「見やすさ」が低かった。授業の進め方および板書やスクリーンの見づらさが理解力を妨げる可能性が考えられた。



(2) 学年平均値は、特に「わかりやすさ」で1、2年次の科目の平均値が低く、「教員の熱意」「見やすさ」も低学年で低い結果となった。



11. 設問 11「教室管理」(縦軸)に関するクロス集計については、相関を調べていない

のでわからないが、「わかりやすさ」「見やすさ」とは特に関連性が疑われる。

(2) 設問 5 「わかりやすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	0	1	0	1	0	0
1	1	283	69	28	4	3
2	0	45	146	43	11	4
3	1	23	50	147	17	10
4	1	2	2	10	3	5
5	0	2	0	4	3	12

(2) 設問 6 「声の聞き取りやすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	0	1	0	1	0	0
1	0	320	52	11	4	1
2	2	74	139	29	5	0
3	0	42	73	119	7	7
4	0	3	8	8	4	0
5	0	5	0	5	3	8

(3) 設問 9 「教科書、配布資料の活用」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	0	1	0	0	0	1
1	1	331	35	15	2	4
2	1	71	130	40	5	2
3	0	44	69	119	6	10
4	0	7	3	6	5	2
5	0	4	1	4	4	8

(4) 設問 10 「見やすさ」

	回答なし	1	2	3	4	5
回答なし	1	0	1	0	0	0
1	1	302	44	29	7	5
2	0	49	137	46	12	5
3	0	24	50	135	24	15
4	0	3	4	6	5	5
5	0	2	2	1	4	12

【考察】

7. 前期と比較し、後期の方が平均値は高く、また平均値を超える科目数が多かった。
8. 前期同様、板書やスクリーンが「見やすく」ないために、「わかりやすさ」つまり「理解」できず、教室管理が悪くなる可能性がある。「教室管理」と「わかりやすさ」ともに学生評価が低い場合には、授業に用いる視聴覚媒体を見直す必要がある。また授業の「進め方」も低かったのは、管理栄養学科は管理栄養士資格に関わる必須科目が多いことから学生が授業を選択する余地はなく、回答率も高いことから、アンケート回答学生のモチベーションに差があることが考えられた。今後、管理栄養士合格率と比較できるように、学生番号と連結可能にすることも検討したい。
9. 前期同様、低学年次の評価が低いため、次年度行う3年次アンケートと比較すると同時に低学年次の学習フォローを更に手厚くする必要があると考えられた。
10. 科目の特性もあるが、よりきめ細かな分析による改善を試みるためには、講義と

実験・実習のアンケート内容を一部変更する必要性を感じた。特に、実験・実習は実技を伴うもので、どのような指導や学生評価、また学生へのフィードバックが管理栄養士の実践に役立つのか、各科目共通の事項と基礎から応用への展開を考慮した授業内容が求められる。

- 1 1. 課題レポートは教育到達目標を明確にし、採点をして返却した後に模範レポートを示すことで学生は振り返りが容易にでき、学習意欲も増すと考える。
- 1 2. 講義では、管理栄養士国家試験を踏まえ、授業開始時に前回の授業の一問一答を国家試験の過去問を基に数分行うことで、学生も復習意欲やわからないところがわかり、教員もガイドラインに沿った授業内容を実施しなければならなくなるので、教育の質が向上すると考える。
- 1 3. 目的である「教育の質の向上」を実践するためには、本学科で、どのような管理栄養士の養成を目指し、そのためにはどのような教育内容を充実すべきかを明確にして、教員間で具体的な教育目標を定期的に確認し、学科内のコンセンサスを得ながら系統的な教育の改善および開発を行うことが望まれる。